

平成 2 7 年 度

定 時 総 会 資 料

公益社団法人 日本経営工学会

公益社団法人 日本経営工学会

平成27年度定時総会次第

1. 開会の辞
2. 出席者数報告
3. 議長の選任
4. 議事録署名人の指名
5. 会長挨拶
6. 報告事項
 6. 1 平成26年度事業報告、収支決算報告及び
平成26年度学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告
 6. 2 監査報告
 6. 3 平成27年度事業計画、収支予算報告
7. 審議事項

第一号議案	平成26年度事業報告及び収支決算報告の件
第二号議案	選挙結果報告の件
第三号議案	規程改定の件
第四号議案	新役員選任の件
第五号議案	会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件
8. 閉会の辞

開催日：平成27年5月30日（土）15：00～

会 場：慶應義塾大学 日吉キャンパス 協生館4F 中会議室

6. 報告事項

6. 1 平成 26 年度事業報告、収支決算報告及び平成 26 年度学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告

6. 1. 1 平成 26 年度事業報告

1. 事業の状況

(1) 研究発表会、学術講演会、報告会等の開催（定款第 4 条第 1 号）：大会委員会

1) 2014 年春季大会

平成 26 年 5 月 17 日(土)～18 日 (日)

於：東京理科大学 野田キャンパス

大会組織委員長：大和田 勇人（東京理科大学）

テーマ「J IMA の国際化と活性化」

2) 2014 年秋季大会

平成 26 年 11 月 8 日(土)～9 日 (日)

於：広島大学 東広島キャンパス

テーマ「アジア発グローバル化と経営工学」

大会組織委員長：高橋 勝彦（広島大学）

3) 第 1 回東アジア IE ワークショップ

平成 26 年 11 月 7 日(金)～9 日 (日)

於：広島大学 東広島キャンパス

テーマ「Industrial Engineering Technologies
in East Asian Countries」

実行委員：中島（神大）、降旗（高千穂大）、
中山（早大）、開沼（首都大）

(2) 会誌その他の図書刊行（定款第 4 条第 2 号）

○日本経営工学会論文誌（Journal of Japan
Industrial management Association）：日本経営
工学会論文誌編集委員会

Vol.65, No.1～No.4, No.2E, No.4E を発行した。

発行年月	巻	号	発行部数
平成 26 年 4 月 15 日	65	1	1,800
平成 26 年 7 月 15 日	65	2,2E	1,800
平成 26 年 10 月 15 日	65	3	1,800
平成 27 年 1 月 15 日	65	4,4E	1,800

招待論文 2 件、原著論文（調査研究）2 件、原著
論文（理論・技術）42 件、原著論文（事例研究）
16 件、研究速報 1 件を収録した。

○経営システム（Communications of JIMA）：経営
システム誌編集委員会

Vol.24, No.1～4 を発行した。

発行年月	巻	号	発行部数
平成 26 年 4 月 15 日	24	1	2,100
平成 26 年 7 月 15 日	24	2	2,100
平成 26 年 10 月 15 日	24	3	2,000
平成 27 年 1 月 15 日	24	4	2,000

(3) 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第 4 条第 3 号）

平成 26 年度 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別
賞報告：表彰委員会

○学会賞（学術）

松川弘明（慶應義塾大学）

対象業績：「生産・物流関連分野の研究への貢献」

＜日本経営工学会論文誌掲載論文から抜粋＞

Vol	No	論文題目	年
44	6	ロジスティクスシステムにおける情報共有化とリードタイム短縮：小ロット化の効果と対策に関する研究	1994
48	6	需要の変動および配送平準化を考慮した多期間配送計画問題	1998
50	1	納期延期を伴う需要の生産方式の選択問題	1999
50	3	発注納期より確定納期が遅れる取引の push/pull 型生産在庫	1999
50	6	革新的製品と瞬時対応型サプライチェーンモデル	2000
51	4	需要予測の誤差を用いた安全在庫の計算方法	2000
51	6	2 段階分枝型在庫システムにおける補充レベルと留保量	2001
52	2	多段階在庫システムにおけるデカップリング在庫に関する研究	2001
52	3	安全在庫の集中とその配分時期の動的決定方法	2001
54	5	複合評価基準に基づいた資源制約付きプロジェクトスケジューリング問題の解法に関する研究	2003
56	1	需要が安定している多期間在庫配送計画問題に関する研究	2005
56	4	Managing Complexity of Manufacturing Strategy : Relationship Structure of Common Approaches	2005
56	6	On the Evaluation of Downstream Information Sharing	2006
58	5	オプション手法を用いた供給契約問題に関する研究	2007

推薦理由：

松川氏は、これまで在庫管理、生産システム、スケジューリング、サプライチェーンマネジメントなどに関する研究を行い、数多くの業績を挙げてきた。特に、サプライチェーンマネジメントに関して、対象範囲をサプライチェーンから在庫、生産、オプション、リバース・クロズドループ、さらには製品設計にまで拡大し、サプライチェーンマネジメントモデルを製品企画・販売から回収・廃棄をも含む統合的なサプライチェーンマネジメントモデルに拡張・展開することに成功している。近年では、国際会議・国際学会を中心とした活動を行い、サプライチェーンリスクやプロジェクトサクセス、BOM をベースにした製造企業間での情報共有といった新たな分野の研究に取り組み成果を挙げている。また、経営工

学会において、エリアエディタ制度の確立に寄与し、研究部門の開設に伴い生産物流部門長に就任し、経営工学における生産・物流関連の学術的な発展に貢献している。

以上のことから、松川氏は経営工学における学術上の貢献を十分に果たしていると考えられる。

○学会賞（功労）

石井和克（金沢工業大学）

対象業績：「経営工学の国際化と国際的なプレゼンスの向上への貢献」

推薦理由：

石井氏は、今日まで経営工学分野において多くの研究業績を挙げるとともに、北陸地方を中心とした企業・行政機関との共同研究、ならびにもものづくり人材育成の分野において多くの功績と成果を挙げてきた。とりわけ、経営工学の国際化への貢献は大変顕著なものがある。石井氏は、ISPIM（International Society for Professional Innovation Management）理事、同フェロー、APIEMS（Asia Pacific Industrial Engineering and Management System Society）理事、第2回 APIEMS Conference Co-Chairman を歴任した。さらに、IFPR（International Foundation for Production Research）理事、同副会長、同フェローに就任し、第22回 ICPR（International Conference for Production Research）では会長を務めるなど、経営工学に関連する国際学会・国際会議の発展に寄与するとともに、日本経営工学会ならびに日本の経営工学の国際化と国際的な認知度の向上に多大なる貢献を果たしてきた。

このように、経営工学の国際的なプレゼンスを大きく高めた功績は非常に大きく、評価に値するものと考えられる。

○論文賞

西野成昭（東京大学）、奥田啓介（東京大学）

対象論文：「経済実験とマルチエージェントシミュレーションの統合的アプローチによる製造業会員型サービスの分析」、Vol. 65, No. 3, pp. 168-179

推薦理由：

本研究では、製造業における会員型サービスのメカニズムについて、実験経済学に基づく被験者実験とマルチエージェントシミュレーションを組み合わせたアプローチにより分析を行っている。製造業のサービス化の例としては、洗濯機やコピー機のレンタルサービスや航空機エンジンのリースサービス、カーシェアリングなどが挙げられるが、製造業が製品を単にモノとして販売するだけでなく、製品の機能を提供しそれに応じて対価を得るというビジネスモデルは、製造業の可能性を広げるという意味で重要な視点と言える。

本研究では、製造業における会員型サービスの枠組みをゲームの理論を用いてモデル化しており、研究対象問題の重要性は高いと考えられる。さらに、被験者実験を通じて、実際の人間が不完備情報化でどのような行動を取るのかを明らかにすると共に、その行動を反映したエージェントの行動ルールを構築することでマルチエージェントシミュレーションに基づく分析を行っている。本論文の論理構成は極めて明快であり、単に流行の分析技術を適用するのみに終始せず、被験者実験とマルチエ

ージェントシミュレーションというアプローチを組み合わせ、多角度から問題に迫っている点は高く評価できる。分析の結果として、対象製品の生産コストの構造によって、適切なサービスシステムの形態が異なることを示しており、興味深い知見を得ることに成功している。

以上のような経緯から、経営工学分野における新たな研究の方向性を切り開いていると考え、論文賞として選出した。

○論文奨励賞

齊藤史哲（青山学院大学）

対象論文：「Web カスタマーレビュー文の理解支援を目的とした自己組織化マップによる評価分布の可視化法」、Vol. 65, No. 3, pp. 180-190

推薦理由：

本論文は、Web 上に投稿されるユーザの評価文であるユーザレビューから知識を抽出し、製品やサービスの改善に結びつけるための方法を研究対象としている。本論文で扱っている研究テーマは、インターネット上での購買活動が飛躍的に増加している現在、タイムリーかつ大変重要な課題であると言える。本研究では、自己組織化マップを用いてユーザレビュー文のテキストデータの分布を可視化する方法を示しており、その際に確率的潜在意味解析を用いて大規模でスパースな行列を小規模の密な行列に変換している。確率的潜在意味解析は、潜在トピックモデルの代表例の一つであり、近年盛んに研究が進められている。導入しているモデルや手法は、すでに提案されている既存モデルや既存手法ではあるものの、それらを組み合わせることで有用な評価分布の可視化が可能であることを示している点は意義深い。また、自己組織化マップのノード上にレビュー文が持つ得点情報をヒートマップの形で付与することを提案しており、これによって評価分布が視覚的に分かり易いものとなっており、実際のテキスト形式のユーザレビュー分析の在り方として、1つの有効な方法論を与えていると考えられる。本論文では、実際の EC サイトの書籍に関するレビュー文を対象に分析を行い、提案法の有効性を示しているが、今後さらに多くのデータに対する適用によって、改善点の洗い出しや改良が行われることを期待したい。

以上のような経緯により、今後のさらなる研究の発展性にも期待し、論文奨励賞として選出した。

下村良（早稲田大学）、三川健太（早稲田大学）、後藤正幸（早稲田大学）

対象論文：「大規模テキストデータの分類体系化のための機械学習に基づく半自動分類法の提案」、Vol. 65, No. 2, pp. 51-60

推薦理由：

今日では、各種カード等による顧客の購入・行動情報やWEB上の様々な顧客情報が収集可能となっており、このようなビッグデータを効率的に分類し、重要情報を抽出し、企業経営に役立てることは、企業において重要な課題となっている。大規模テキストデータ分類に対して、人手によるデータの構造化、計算機による文書クラスタリングや文書自動分類などの数多くの研究がなされて

きた。本論文は、このような大規模テキストデータの分類に対して、人手によるサンプルデータの分類手法と全体データに対する自動文書分類技術を組み合わせた効率的な解析支援手法を提案している。人手による分類手法は KJ 法、計算機による分類手法はテンプレートマッチングとセルフトレーニングを基本としたものであり、個々のモデルや手法は必ずしもオリジナルなモデル・手法であるとは言えないが、これらの分類手法を組み合わせることで、大規模なデータに対して、カテゴリの意味を能動的に決定できかつ精度の高い分類を可能とすることに成功している。また、約 6 万件の事例データに対する数値実験により、提案した手法の有効を示している。数値実験の結果に未分類となるデータもまだ多く存在するなどの課題はあるが、提案手法は残された課題を上回る十分な価値と実用性があると考えられる。

以上のような経緯により、今後のさらなる研究の発展性にも期待し、論文奨励賞として選出した。

○特別賞 経営システム賞

山田義照（玉川大学）

対象業績：「BSC と方針管理の連結」、Vol. 24, No. 2, pp. 67-73
推薦理由：

本稿は、日本の現物現場主義から生まれた方針管理に対して、米国流トップダウンの戦略マネジメント、バランスト・スコアカード（BSC）をどのように融合させるかについて重要な示唆を提供してくれている。現在の経営工学には、グローバル化の潮流のなかで、トップダウン型のマネジメントとの融和をどうとるかという実務的課題がある。本稿は、そのような実務的な課題に対して 1 つの解決策を提示してくれているという点で優れていると考えられる。

以上のような経緯から、今後のさらなる研究の発展性に期待し、経営システム賞として選出した。

○特別賞 経営工学実践賞

赤木宏匡（鹿島建設）

対象業績：「鹿島建設の海外展開、経営工学部門の産学連携」、
2014 年春季大会 特別セッション

推薦理由：

2014 年春季大会の企業事例セッションでは、鹿島建設の海外展開手法について鹿島建設（株）赤木氏にご紹介いただいた。鹿島建設では建築事業と開発事業は子会社である現地法人が事業展開を図っており、その特殊性から経営工学は積極的に活用されていなかった。しかし、近年の工期短縮、コスト低減などの市場要求に応えるため、経営工学的視点が活用されている。企業事例セッションでは海外展開において改善すべき課題や、それに対する経営工学の活用法をお話いただいた。さらに、赤木氏の留学経験から学んだ米国での産学連携の仕組みについてもご紹介いただき、日本における今後の産学連携のあり方について、JIMA への今後の期待と共にお話いただいた。

以上のような経緯から、今後の産学連携のもとでの鹿島建設の発展に期待し、実践賞として選出した。

○特別賞 優秀学生賞

氏名	大学名	学部学科名
市川雄一朗	青山学院大学	理工学部 経営システム工学科
秋山義希	足利工業大学	工学部創生工学科情報 システムデザイン学系
鉄本貴之	大阪府立大学	工学部電気情報 システム工学科
松浦 憧	神奈川大学	工学部経営工学科
三川史家	近畿大学	工学部 情報システム工学科
茅田 昂	慶應義塾大学	理工学部管理工学科
植松凌太	首都大学東京	システムデザイン学部 経営システムデザイン コース
赤羽洋樹	成蹊大学	理工学部 システムデザイン学科
長谷部勝也	成蹊大学	理工学部情報科学科
村山駿	千葉工業大学	社会システム科学部 プロジェクトマネジ メント学科
木下雄貴	電気通信大学	情報理工学部総合情報 学科経営情報学コース
山下希	東海大学	情報通信学部 経営システム工学科
湖山浩光	東京工業大学	工学部 経営システム工学科
鈴木愛一郎	東京都市大学	知識工学部 経営システム工学科
小林高之	東京理科大学	理工学部経営工学科
竹山亜里沙	長崎総合科学大学	総合情報学部 総合情報学科
岡本康佑	名古屋工業大学	工学部都市社会工学科
嶋村太成	福岡工業大学	情報工学部システム マネジメント学科
金銅孝明	法政大学	理工学部 経営システム工学科
石地和樹	早稲田大学	創造理工学部 経営システム工学科

以上 19 名

(4) 調査、研究、見学及び視察（定款第4条第4号）

支部及び研究部会を通して以下の通り活動した。

支部活動：支部委員会

1. 東北・北海道支部

ー北海道、青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島

支部長：董彦文（福島大学大学）

副支部長：渡部順一（東北工業大学）

事務局：〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾 30

福島工業高等専門学校

コミュニケーション情報学科

事務局担当者名 芥川 一則

TEL：0246-46-0847 FAX：0246-46-0847

E-mail：akutagaw@fukuahima-nct.ac.jp

<http://jima.sss.fukushim-u.ac.jp>

1. 平成年度支部総会

日時：平成27年3月1日（日）11：00～11：30

会場：東北工業大学 一番町ロビーホール

出席者：6名

議題：

- (1) 平成25年度事業報告及び収支報告
- (2) 平成26年度収支決算報告及び監査報告
- (3) 平成27年度事業計画案及び収支予算案

2. 運営委員会（支部役員会・幹事会）

日時：平成27年3月1日（日）11：30～12：00

会場：東北工業大学 一番町ロビーホール

出席者：6名

3. 平成25年度卒業論文・修士論文発表会

日時：平成27年3月1日（日）13：00～16：00

会場：東北工業大学

発表件数：7件

参加者：13名

4. 支部所属会員数（平成27年3月末）

正会員数 47名、名誉会員数 0名、

学生会員数 2名、賛助会員数 1社

2. 北関東支部

ー埼玉、栃木、群馬

支部長：正道寺勉（日本工業大学）

事務局：〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1

日本工業大学工学部情報工学科内

事務局担当者名 辻村 泰寛

TEL：0480-34-4111 FAX：0480-33-7461

E-mail：tujimr@nit.ac.jp

<http://leo.nit.ac.jp/~mukuda/jima/>

1. 運営委員会

日時：平成27年3月5日（木）11：00～12：00

会場：日本工業大学情報工学科会議室

出席者：8名

2. 平成26年度学生論文発表会

(1) 発表会

日時：平成27年3月5日（木）13：30～16：20

会場：日本工業大学

発表件数：7件

参加者：20名

(2) 懇親会

会場：日本工業大学

参加者：13名

3. 支部所属会員数（平成27年3月末）

正会員数 68名、名誉会員数 0名、

学生会員数 8名、賛助会員数 0社

3. 東関東支部

ー千葉、茨城

支部長：大和田勇人（東京理科大学）

副支部長：白井 裕（千葉工業大学）

飯沼 守彦（日本大学）

事務局：〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641

東京理科大学理工学部経営工学科内

事務局担当 石垣 綾

TEL：04-7124-1501（代表）

FAX：04-7122-4566（学科事務局）

E-mail：ishigaki@rs.noda.tus.ac.jp

<http://www.jimanet.jp/office/branch/higashi-kanto/>

1. 支部総会（メール審議）

議題：

- (1) 平成25年度支部事業報告
- (2) 平成25年度支部決算報告
- (3) 平成26年度支部事業計画
- (4) 平成26年度支部予算案
- (5) その他

2. 平成26年度春季大会（東関東支部地区開催）

日時：平成26年5月17日（土）、18日（日）

会場：東京理科大学 野田キャンパス

3. 運営委員会

日時：平成26年11月29日（土）12：00～12：45

会場：流通経済大学 新松戸キャンパス

出席者：7名

4. 定例セミナー

日時：平成26年11月29日（土）16：00～18：00

会場：流通経済大学 新松戸キャンパス

- (1) 講演題目：自動車の研究開発における人間工学の活用
講演者：石橋 基範 氏（日本大学）

- (2) 講演題目：チャイルドケアとヘルスケアの充実に向けた経営工学的アプローチー人間工学と福祉工学の観点からー

講演者：高野倉 雅人 氏（神奈川大学）

参加者：39名

5. 平成26年度事業所見学会

日時：平成26年10月25日（土）13：20～15：30

会場：TOYOTA L&F

参加者：11名

6. 平成26年度学生論文中間検討会

日時：平成26年11月29日（土）13：00～14：45

会場：流通経済大学 新松戸キャンパス

発表件数：7件

参 加 者 : 39 名

7. 平成 26 年度学生論文発表会

日 時 : 平成 27 年 3 月 5 日 (金) 13 : 00~17 : 00

会 場 : 流通経済大学 新松戸キャンパス

発表件数 : 7 件

参 加 者 : 39 名

8. 支部所属会員数 (平成 27 年 3 月末)

正会員数 81 名、名誉会員数 2 名、

学生会員数 11 名、賛助会員数 0 社

4. 西関東支部

ー神奈川、東京、山梨

支 部 長 : 大場允晶 (日本大学)

副支部長 : 河野宏和 (慶應義塾大学)、藤川裕晃 (東京理科大学)、飯島俊文 (Q & T マネジメント研究所)、前田智彦 (富士通(株))

会 計 : 岡部建次 (駿河台大学)

事 務 局 : 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学 8 号館 7 階 703 中邨研究室

事務局担当者 中邨良樹

E-mail : nakamura@busi.aoyama.ac.jp

http://www.jiminet.jp/office/branch/nishi-kanto

1. 平成 26 年度支部総会

日 時 : 平成 26 年 4 月 26 日 (土) 14:30~15:30

会 場 : 日本大学 経済学部 本館 中会議室 2

出席者 : 6 名

議 題 :

- (1) 平成 25 年度事業報告及び収支報告
- (2) 平成 25 年度収支決算報告及び監査報告
- (3) 平成 26 年度事業計画案及び収支予算案
- (4) 支部役員分担の変更
- (5) その他

2. 人材育成研究会

(1) 第 1 回

日 時 : 平成 26 年 4 月 26 日 (土) 16 : 00~18 : 00

会 場 : 日本大学経済学部本館

題 名 : 『『あるべき姿』を目指して ー全体改善のためのトヨタ方式ー』

講 師 : 近藤哲夫 (ケースエンジニアリング株式会社)

参加者 : 25 名

(2) 第 2 回

日 時 : 平成 26 年 6 月 21 日 (土) 16 : 00~18 : 00

会 場 : 日本大学経済学部本館

題 名 : 「人のふり見て我が夢を叶えよう」

講 師 : 君塚義郎 (株式会社崎陽軒)

参加者 : 9 名

(3) 第 3 回

日 時 : 平成 26 年 10 月 4 日 (土) 16 : 00~17 : 30

会 場 : 青山学院大学 青山キャンパス

題 名 : 「医療における画像診断の技術イノベーション」

講 師 : 加藤久豊 (元 富士フイルムメディカル(株))

参加者 : 24 名

(4) 第 4 回

日 時 : 平成 26 年 3 月 17 日 (火) 12 : 45~14 : 15

会 場 : 富士通アイソテック

題 名 : 「インダストリー 4.0」

講 師 : 西岡靖之 (法政大学)

参加者 : 12 名

3. 6 次産業の経営工学研究

(1) 第 1 回

日 時 : 平成 26 年 4 月 26 日 (土) 16 : 00~18 : 00

会 場 : 日本大学経済学部本館

題名および講師名 :

- 1) 長谷川知央, 「農産品 S C M の提案」, 2013 年度東京理科大修了生
- 2) 岩佐和奈, 「植物工場の活用による根菜類の生産期間短縮」, 2013 年度東京理科大卒業生

参加者 : 9 名

(2) 第 2 回

日 時 : 平成 26 年 7 月 19 日 (土) 15 : 00~17 : 00

会 場 : 青山学院大学 青山キャンパス

題 名 : 「第 6 次産業について」

講 師 : 桜庭英悦 (農林水産省)

参加者 : 9 名

(3) 第 3 回

日 時 : 平成 26 年 9 月 13 日 (土) 15 : 00~18 : 00

会 場 : 日本大学経済学部本館

題名および講師名 :

- 1) 門間敏幸, 「ネットワーク型農産経営」, 東京農業大学教授
- 2) 尾ノ井憲三, 「コメが日本人と人類を救う」, ヤンマーディーゼル(株)

参加者 : 18 名

(4) 第 4 回

日 時 : 平成 26 年 12 月 20 日 (土) 16 : 00~18 : 00

会 場 : 日本大学経済学部本館

題 名 : 「植物工場エンジニアリング」

講 師 : 山中宏夫 (大成建設(株))

参加者 : 20 名

4. 第 14 回学生論文発表会

日 時 : 2015 年 3 月 6 日 (金) 13 : 00~18 : 00

会 場 : 電気通信大学

発表件数 : 19 件

参 加 者 : 50 名

5. 第 7 回 国際学会発表研修会

日 時 : 2015 年 8 月 29 日 (金) 13 : 00~17 : 00

会 場 : 日本大学経済学部本館

発表件数 : 3 件

参 加 者 : 12 名

6. 事業所見学会

日 時：平成 26 年 3 月 17-18 日

会 場：富士通アイソテック

会津若松 Akisai やさい工場

参加者：12 名

7. 支部所属会員数（平成 27 年 3 月末）

正会員数 475 名、名誉会員数 15 名、

学生会員数 40 名、賛助会員数 7 社

5. 中部支部

－愛知、岐阜、三重、静岡

支 部 長：越島一郎（名古屋工業大学）

副支部長：内藤雅俊（トヨタ自動車(株)）

後藤時政（愛知工業大学経営学部）

事 務 局：〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

名古屋工業大学工学部都市社会工学科内

事務局担当者名 越島一郎

TEL：052-735-7177 FAX：052-735-7177

E-mail：koshijima.ichiro@nitech.ac.jp

<http://www.jimaneet.jp/office/branch/chubu/>

1. 運営委員会（支部役員会・幹事会）

(1) 第 1 回

日 時：平成 26 年 4 月 25 日（金）18：00～20:00

会 場：名古屋工業大学 16 号館 313 室

出席者：12 名

(2) 第 2 回

日 時：平成 27 年 1 月 7 日（水）18:00～20:00

会 場：名古屋工業大学 16 号館 313 室

出席者：11 名

2. 講演会

日 時：平成 27 年 2 月 26 日（木）16：20～18：00

会 場：名古屋工業大学 0221 教室

(1) 題名：これからの日本の『モノづくり、人づくり』

講師：藤井 章（(株)デンソー セラミック技術部
技術企画室 室長）

(2) 題名：モノづくり持続化のための共通価値づくり

講師：西田 絢子（(株)アスプロス）

参加者：50 名

3. 平成 26 年度 日本経営工学会中部支部研究発表会

(1) 研究発表会

日 時：平成 27 年 2 月 26 日（木）10：00～16：20

会 場：名古屋工業大学 0221 教室

発表件数：15 件

参 加 者：50 名

(2) 懇親会

会 場：名古屋工業大学

参加者：20 名

4. 協賛事業

第 11 回 OR 学会中部支部シンポジウム

主催：日本オペレーションズ・リサーチ学会中部支部

協賛：日本経営工学会中部支部、日本品質管理学会中部

支部、中部品質管理協会、情報処理学会東海支部、
電子情報通信学会東海支部、日本マーケティング・サイエンス学会、統計数理研究所・統計的機械学習研究センター、電子情報通信学会 IBISML 研究会

後援：中部産業連盟

日時：平成 26 年 9 月 27 日（土）13：30～17：30

会場：ウイंकあいち 15 階

5. 支部所属会員数（平成 27 年 3 月末）

正会員数 107 名、名誉会員数 2 名、

学生会員数 5 名、賛助会員数 6 社

6. 北陸支部

－石川、富山、福井、新潟、長野

支 部 長：中野真（金沢工業大学）

副支部長：岡崎義仁（NEC）

事 務 局：〒924-0838 白山市八束穂 3-1

金沢工業大学情報フロンティア学部経営情報学科

事務局担当者名 中野真

TEL：076-274-7084 FAX：076-274-7061

E-mail：mnakano@neptune.kanazawa-it.ac.jp

<http://jima-hokuriku.labos.ac/>

1. 運営委員会（支部役員会・幹事会）

(1) 第 1 回

日 時：平成 26 年 7 月 25 日（金）19：00～19：30

会 場：鍋木商舗

出席者：7 名

(2) 第 2 回

日 時：平成 27 年 2 月 28 日（土）13：15～13：45

会 場：石川県女性センター

出席者：11 名

2. 定例セミナー

日 時：平成 25 年 11 月 2 日（土）13：30～15：50

会 場：石川県文教会館

(1) 題名：「日本企業のベトナム進出の現状と課題～消費財企業を中心に～」

講師：西山茂氏（早稲田大学大学院）

(2) 題名：「初の海外工場設立の課題と教訓～イスラムの国 インドネシア～」

講師：寺岡敬之郎氏（株式会社寺岡製作所）

参加者：77 名

3. 事例研究会

日 時：平成 26 年 10 月 4 日（土）13：00～17：00

会 場：石川県女性センター

題 名：日本経営工学会北陸支部共催、日本生産管理学会中部支部協賛

金沢工業大学情報マネジメント研究所製造中核

人材育成セミナーナレッジチェーンマネジメント

課題改善成果発表会

参加者：18 名

4. 学生論文発表会

日 時：平成 27 年 2 月 28 日（土）14：00～16：20

会 場：石川県女性センター

発表件数：6 件

参 加 者：20 名

5. 支部所属会員数（平成 27 年 3 月末）

正会員数 40 名、名誉会員数 0 名、

学生会員数 0 名、賛助会員数 0 社

7. 関西支部

ー大阪、京都、兵庫、和歌山、奈良、滋賀

支 部 長：本位田光重（大阪工業大学）

副支部長：飛田甲次郎（グローバル・プラットフォームコンサルティング）

事 務 局：〒535-8585 大阪市市旭区大宮 5-16-1

大阪工業大学工学部技術マネジメント学科内

事務局担当者名 皆川 健多郎

TEL：06-6954-4318 FAX：06-6952-6197

E-mail：jima.kansai@gmail.com

<https://sites.google.com/site/jimakansai/>

1. 平成 26 年度特別講演会

日 時：平成 26 年 6 月 14 日（土）14：30～16：30

会 場：大阪工業大学 大阪センター 302 教室

出席者：21 名

(1) 議題

1) 支部長挨拶

2) 平成 25 年度事業報告

3) 平成 25 年度収支決算報告

4) 平成 26 年度事業計画案

5) 平成 26 年度収支予算案

6) 役員異動

7) その他

(2) 特別講演

会 場：大阪工業大学 大阪センター

題 名：イノベーションマネジメントを経営科学的な
視点から研究する意味

講 師：太田雅晴（大阪市立大学大学院）

参加者：21 名

(3) 懇親会

会 場：大阪工業大学 大阪センター

参加者：10 名

2. 運営委員会（支部役員会・幹事会）

(1) 第 1 回

日 時：平成 26 年 6 月 14 日（土）16：30～17：00

会 場：大阪工業大学 大阪センター

出席者：15 名

(2) 第 2 回

日 時：平成 26 年 7 月 26 日（土）14：00～15：00

会 場：大阪工業大学うめきたレジセンター

出席者：5 名

(3) 第 3 回

日 時：平成 26 年 10 月 11 日（土）17：00～17：30

会 場：大阪工業大学うめきたレジセンター

出席者：10 名

(4) 第 4 回

日 時：平成 26 年 12 月 13 日（土）13：00～14：00

会 場：大阪工業大学うめきたレジセンター

出席者：8 名

(5) 第 5 回

日 時：平成 27 年 2 月 14 日（土）13：00～13：30

会 場：関西学院大学 大阪梅田キャンパス

出席者：9 名

3. 経営工学セミナー

(1) 第 1 回（日本経営システム学会関西支部共催）

日 時：平成 26 年 10 月 11 日（土）14：00～17：00

会 場：大阪工業大学うめきたレジセンター

1) 題名：BOP（Base of the Economic Pyramid）における
携帯電話の役割と進化

講師：西本 凌（関西学院大学大学院）

2) 題名：内示情報と生産計画 —レジリエンスに優れた
内示生産システムの設計にむけて—

講師：上野 信行（県立広島大学）

参加者：31 名

(2) 第 2 回（日本経営システム学会関西支部共催）

日 時：平成 27 年 2 月 14 日（土）14：00～17：00

会 場：関西学院大学 大阪梅田キャンパス

1) 題名：「中小企業の経営」に関するもの

講師：亀田 昌宏（キシマ）

2) 題名：ナショナルレジリエンス実現に寄与する環境
優良車のイノベーション普及戦略

講師：石田 修一（立命館大学大学院）

参加者：27 名

4. 学生論文発表会

日 時：平成 27 年 3 月 3 日（月）13：00～15：00

会 場：龍谷大学 深草キャンパス

発表件数：4 件

参 加 者：14 名

5. 工場見学会

(1) 第 1 回（日本設備管理学会関西支部共催）

日 時：平成 26 年 7 月 11 日（火）13：30～16：30

会 場：HILLTOP（株）京都本社

参加者：18 名

(2) 第 2 回（日本設備管理学会関西支部共催）

日 時：平成 27 年 1 月 16 日（月）13：30～16：30

会 場：（株）クボタ 阪神工場

参加者：20 名

(3) 第 3 回（日本設備管理学会関西支部共催）

日 時：平成 27 年 3 月 9 日（月）13：30～16：15

会 場：（株）コマツ 大阪工場

参加者：24 名

6. 支部所属会員数（平成 27 年 3 月末）

正会員数 177 名、名誉会員数 7 名、
学生会員数 8 名、賛助会員数 4 社

8. 中国四国支部

一鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、高知、徳島
支 部 長：金川明弘（岡山県立大学）

副支部長：宋相戴（広島工業大学）、高橋勝彦（広島大
学）、真鍋慎吾（マツダ(株)）

監 事：錦織昭峰（県立広島大学）、森川克己（広島大学）

事 務 局：〒734-8558 広島市南区宇品東 1-1-71

県立広島大学経営情報学部経営情報学科内

事務局担当者 竹本 康彦

TEL：082-251-9579 FAX：082-251-9405

E-mail：cs.jima@gmail.com

<https://sites.google.com/site/cs.jima/>

1. 平成 26 年度支部総会

日 時：平成 26 年 6 月 14 日（土）14：00～15：00

会 場：広島工業大学広島校舎

出席者：29 名（委任状 18 名を含む）

議 題：

- (1) 平成 25 年度支部事業報告
- (2) 平成 25 年度支部決算報告
- (3) 平成 26 年度支部事業計画
- (4) 平成 26 年度支部予算
- (5) 2014 年秋季大会について
- (6) その他

2. 支部役員会

(1) 第 1 回

日 時：平成 26 年 6 月 14 日（土）14：00～15：00

会 場：広島工業大学広島校舎

出席者：21 名（委任状 11 名を含む）

(2) 第 2 回

日 時：平成 25 年 9 月 23 日～30 日（メール審議）

出席者：25 名

(3) 第 3 回

日 時：平成 27 年 3 月 7 日（土）12：00～13：00

会 場：県立広島大学サテライトキャンパス

出席者：21 名（委任状 6 名を含む）

3. 講演会

(1) 第 1 回

日 時：平成 26 年 6 月 14 日（土）15：30～17：00

会 場：広島工業大学広島校舎

題 目：データ中心社会科学の最近の研究動向と事例
～ホテル予約サイトデータと国際線旅客航空
機データの分析を通じて～

講 師：佐藤 彰洋 氏（京都大学 大学院情報学研
究科 数理工学専攻）

出席者：12 名

(2) 第 2 回（後援）

主 催：ひろしま IT 融合 Forum 知能化技術研究会

日 時：平成 26 年 9 月 24 日（水）15：00～17：00

会 場：県立広島大学サテライトキャンパス

題 目：インダストリー4.0に向けた ICT に基づくデ
ータ分析

講 師：竹本 康彦 氏（県立広島大学経営情報学部
准教授）

出席者：31 名

(3) 第 3 回（共催）

主 催：ひろしま IT 融合 Forum 知能化技術研究会

日 時：平成 26 年 10 月 29 日（水）15：00～18：00

会 場：広島市立大学サテライトキャンパス

1) 題目：ビッグデータに対する時空間データマイニン
グ～位置情報付き文書データの時空間分析
手法とその応用～

講師：田村 慶一 氏（広島市立大学大学院情報
科学研究科准教授）

2) 題目：遺伝的プログラミングとその応用～ロボッ
トの行動制御やデータからの知識獲得～

講師：原 章 氏（広島市立大学大学院情報科学
研究科准教授）

出席者：20 名

(4) 第 4 回（共催）

主 催：ひろしま IT 融合 Forum 知能化技術研究会

日 時：平成 26 年 12 月 3 日（水）15：00～18：00

会 場：県立広島大学サテライトキャンパス

1) 題目：検査機器における最適化技術の応用例について

講師：加藤 浩介 氏（広島工業大学情報学部教授）

2) 題目：光学的特性のセンシング技術と検査機器への応用

講師：大谷 幸三 氏（広島工業大学情報学部教授）

出席者：21 名

4. 2014 年秋季大会

日 時：平成 26 年 11 月 8 日・9 日（土・日）

会 場：広島大学・東広島キャンパス

参 加 者：221 名

発表件数：148 件

5. 工場見学会

日 時：平成 26 年 11 月 7 日（金）

場 所：マツダ株式会社本社工場

出席者：55 名

6. 第 41 回学生論文発表会

日 時：平成 27 年 3 月 7 日（土）13：15～17：00

会 場：県立広島大学サテライトキャンパス

発表件数：19 件

参 加 者：37 名

7. 支部役員選挙

告 示：平成 26 年 12 月 9 日

立候補受付：平成 27 年 1 月 9 日締切

選 挙 期 間：平成 27 年 1 月 16 日～2 月 16 日

8. 支部選挙管理委員会

(1) 第 1 回（メール審議）

日 時：平成 26 年 11 月 20～12 月 1 日

出席者：5 名

(2) 第 2 回

日 時：平成 27 年 2 月 23 日（月）18：00～19：00

出席者：5 名

9. 国際会議 ICIM

開 催 日：平成 26 年 9 月 3 日～5 日

開 催 地：中国・成都

発表件数：約 80 件

参 加 者：約 90 名

10. 支部表彰

平成 27 年 3 月 7 日（土）

(1) 優秀研究発表賞 9 名

有田里美（岡山県立大学大学院），糸谷和洋（広島市立大学），上原幸也（広島大学），宇田孝（近畿大学工学部），川田恭平（岡山大学），田村厚典（岡山大学），中井優花（県立広島大学），森達志（広島工業大学），山本紗稔（県立広島大学）

(2) 研究発表賞 10 名

安保 卓朗（岡山大学），山下頼隆（県立広島大学），岡田慎太郎（鳥取大学大学院），亀谷司（鳥取大学大学院），尾藤由衣（鳥取大学大学院），深田輝（広島大学），中葛嘉人（近畿大学工学部），重安啓孝（近畿大学工学部），山田貴之（広島工業大学），古本憲史（広島大学），

(3) 支部長賞 6 名

安保卓朗（岡山大学），上原幸也（広島大学），亀谷司（鳥取大学），重安啓孝（近畿大学工学部），森達志（広島工業大学），山本紗稔（県立広島大学）

11. 支部所属会員数（平成 27 年 3 月末）

正会員数 84 名、名誉会員数 2 名、

学生会員数 12 名、賛助会員数 2 社

9. 九州支部

一福岡、佐賀、熊本、大分、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄

支 部 長：宋 宇（福岡工業大学）

副支部長：徂徠三十六（日本文理大学）、河内明人（AK マネジメントパートナー）、高木 昇（九州産業大学）

監 事：太田能史（太田総合経営研究所）、上田文人（福岡工業大学）

事 務 局：〒811-0295 福岡市東区和白東 3-30-1

福岡工業大学情報工学部

システムマネジメント学科内

事務局担当者名 田嶋拓也（Ms. 道下）

TEL:092-606-3131 FAX:092-606-0756

E-mail:kanjim@fit.ac.jp

http://www.fit.ac.jp/~akagi/JIMA/

1. 平成 26 年度支部総会

日 時：平成 26 年 4 月 19 日（土）13:10～14:00

会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階演習室 3

出席者：24 名（委任状 13 名を含む）

(1) 議題

1) 会員在籍状況・入退会状況報告

2) 平成 25 年度事業報告

3) 平成 25 年度会計（決算）報告

4) 平成 26 年度事業計画、役員

5) 平成 26 年度予算

6) その他・平成 26 年度第 2 回研究会についてなど

7) 総会終了後表彰

(2) 意見交換会

会 場：福岡工業大学内

参加者：11 名

2. 運営委員会（支部幹事会）

(1) 第 1 回

日 時：平成 26 年 7 月 26 日（土）12:15～13:15

会 場：大分ホルトホール 407 会議室

出席者：19 名（委任状 10 名を含む）

(2) 第 2 回

日 時：平成 26 年 12 月 6 日（土）12:40～13:30

会 場：九州産業大学 1 号館 8 階小会議室

出席者：19 名（委任状 5 名を含む）

3. 定例セミナー

第 1 回（協賛。日本生産管理学会九州支部主催）

日 時：平成 26 年 12 月 6 日（土）14:20～17:40

会 場：九州産業大学 1 号館 8 階中会議室

(1) 第 1 発表 14：20～15：20

題名：大学授業の活性化とアクティブラーニングについて

講師：大塚淳子（コンサルティング Office ジェイティス）

(2) 第 2 発表 15：30～16：30

題名：NB メーカーによる地域限定商品開発と流通

講師：吉川勝弘（熊本学園大学商学部）

(3) 第 3 発表 16：40～17：40

題名：理工系学生のキャリア支援—自律型人材の育成を目指して—

講師：田中俊治（長崎総合科学大学）

参加者：22 名

4. 研究会

(1) 第 1 回

日 時：平成 26 年 4 月 19 日（土）14:10～17:30

会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階演習室 3

1) 第 1 発表 14：10～15：10

題名：続「日中関係におけるジレンマ」

講師：小山田泰洋（オーテック）

2) 第 2 発表 15：20～16：20

題名：企業資本計算式とキャッシュ・フロー計算書

講師：渡瀬一紀（長崎総合科学大学）

3) 第 3 発表 16：30～17：30

題名：英国大学教育における質保証について

講師：宋 宇（福岡工業大学）帰国報告

参加者：11 名

(2) 第 2 回

日 時：平成 26 年 7 月 26 日（土）13:25～16:45

場 所：大分ホルトホール 407 会議室

1) 第 1 発表 13：25～14：25

題名：製造業における究極の原価低減活動－最小コスト志向を目指して－

講師：泉 英明（総合政策研究所）

2) 第 2 発表 14：35～15：35

題名：ボードゲームを用いた簿記のアクティブ・ラーニング

講師：吉本圭一郎（日本文理大学）

3) 第 3 発表 15：45～16：45

題名：高度情報化・国際化時代の生産管理

講師：赤木文男（福岡工業大学）

参加者：12 名

5. 第 41 回学生論文発表会

(1) 発表会

日 時：平成 27 年 2 月 21 日（土）11:00～16:00

会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階演習室 3

発表件数：10 件

参 加 者：25 名

(2) 懇親会

会 場：福岡工業大学内

参加者：18 名

6. 見学会

（日本生産管理学会九州支部(JSPM)と共催）

日 時：平成 26 年 8 月 1 日（金）9:00～17:00

会 場：

(1) 株式会社電機八幡西事業所

(2) 株式会社朝日プリンテック北九州工場

参加者：38 名

7. 学生会講演会

日 時：平成 26 年 12 月 4 日（木）13:00～14:30

会 場：長崎総合科学大学 8 号館 831 教室

題 名：いろいろなセンサの特徴と活用－マーケティング分野への応用研究－

講 師：田嶋拓也（福岡工業大学）

参加者：100 名

8. 支部所属会員数（平成 27 年 3 月末）

正会員数 45 名、名誉会員数 0 名、

学生会員数 1 名、賛助会員数 0 社

研究部門・研究プロジェクト活動：研究委員会

1. 生産・物流部門

（部門長：松川弘明）

1. 概要

生産物流部門では、実務における課題を基本とした社会貢献をめざし、産学の交流及びグローバルな研究・連携を目指して、東アジア IE ワークショップへの協力、産学連携ワークショップおよび国際ワークショップ主催等の活動を行ってきた。

2. 研究部門活動報告

(1) 2014 年 11 月 1～3 日 第 2 回国際ワークショップ（沖縄県：ホテルムーンビーチ）

Keynote speech：“Supply Chain Risk Management”

Prof. Dr. Stefan Minner, Technische Universität München

14 件の一般発表（詳細は JIMA HP 参照）

参加者 21 名

(2) 2015 年 2 月 27 日 生産物流部門講演会「ASEAN の現状と展望」

参加者 12 名

(3) 2015 年 3 月 7 日 第 2 回産学連携ワークショップ

特別講演：「大分県北部地域における自動車関連産業の人材育成事業」

宮田 守次（ミヤタハイメック品質技術研究所 代表、大分県 QC サークル活動支援企業会アドバイザー）

7 件の一般発表（詳細は JIMA HP 参照）

参加者 10 名

3. 研究成果（研究発表等）

(1) APIEMS オーガナイズドセッションを開催

(2) 2014 年 11 月 8-9 日に広島大学で開催された EAIEWS において、3 件のオーガナイズドセッションを開催

(3) 2013 年度 理科特別講座 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト&望洋特別理科講座 ～生産物流システムを科学的に捉えよう～へ協力

1) 2014 年 8 月 29 日（金）神奈川大学横浜キャンパスにて開催

2) 2014 年 9 月 3 日（水）東海大学付属望洋高校にて開催

(4) 2015 年度春季大会において、QFD 研究プロジェクトによるオーガナイズドセッションを企画

(5) 2016 年 7 月発行予定の JIMA 英文特集号を企画

1-1. 日中自動車産業比較分析研究プロジェクト

（主査：方蘇春）

1. 概要

(1) 主旨・目的

中国では年間 2,000 万台を超える車が生産販売されており、日本の自動車業界にとって、中国はアメリカやヨーロッパを超える世界最大な市場である。本プロジェクトは経営工学的な手法を用いて、日中両国の自動車産業の生産方式やサプライチェーンシステムなどを系統的に比較分析することを通じて、日本自動車メーカーの強みであるエコカー技術や環境配慮型生産方式などを中国自動車産業への適用、それに伴う生産販売シェア拡大の方策を提言していくことを目的とする。

(2) 研究期間

2014.4～2015.3 （継続・2 年目）

構成メンバー（氏名・所属・役職）

主査：方 蘇春 聖泉大学人間学部教授

副査：北條仁志 大阪府立大学理学部准教授

部員：

松川弘明 慶應義塾大学理工学部教授
郭 偉宏 東京都市大学環境情報学部教授
邵 忠 尾道大学経済情報学部教授
(以上、会員)

野本 茂 聖泉大学人間学部教授
富川 拓 聖泉大学人間学部准教授
(以上、非会員)

オブザーバー：

中島健一 神奈川大学工学部教授

2. 研究プロジェクト活動報告

関西と広島にて年 3 回の研究会を開催し、研究テーマについて活発な議論を行った。

- (1) 第 1 回研究会 (日本オペレーションズ・リサーチ学会リーマンマネジメントシステム研究部会との共同開催)

開催日：2014 年 7 月 26 日(土)

場所：サムディフェイム新大阪

講演題目：「中国の中古車流通 ―その変遷と現状―」

講師：大阪商業大学総合経営学部教授 孫 飛舟 氏

参加者数：9 名

- (2) 第 2 回研究会

開催日：2014 年 12 月 13 日(土)

場所：レンタルスペース

講演題目：「中国における VW と現代自動車の生産システム」

講師：大阪市立大学創造都市研究科教授 朴 泰勲 氏

参加者数：10 名

- (3) 第 3 回研究会

開催日：2015 年 2 月 21 日(土)

場所：広島大学 東広島キャンパス

講演題目：「中国自動車産業における日本のサプライヤー・システム分析」

講師：広島大学大学院総合科学研究科准教授
山崎 修嗣 氏

参加者数：12 名

3. 研究成果 (研究発表等)

- (1) 本研究会の研究成果の一部を 2014 年 11 月 8 日(土)に開催された 2014 年秋季大会の生産物流研究部門セッションにて発表を行った。
- (2) 本研究会の研究成果の一部を 2015 年 3 月 8 日(日)に開催された生産物流部門第 3 回産学交流ワークショップにて発表を行った。

1-2. 品質機能展開を用いた生産・物流活動の業務設計に関する研究プロジェクト

(主査: 木内正光)

1. 概要

品質機能展開は、企業における様々な情報の整理・整頓を行う方法論である。本研究プロジェクトでは、品質機能展開の対象を生産・物流活動とし、適切な業務設計を行うためのフレームワークを構築する。

2. 研究プロジェクト活動報告

第 1 回 品質機能展開を用いた生産・物流活動の業務設計に関する研究会

開催日：平成 27 年 2 月 25 日(水)

場所：城西大学東京紀尾井町キャンパス

- (1) 「QFD による生産管理の意義」城西大学 木内正光氏
(2) 「QFD の新展開」玉川大学 永井一志氏
(3) 「マネジャーの育成に向けた QFD の活用」(株)KANJIE ASSOCIATES 田中孝司氏
(4) 「業務機能展開に基づく組織力向上」コニカミノルタ(株) 原賀秀昭氏
(5) 「開発プロセス改革」ダッソーシステムズ(株) 中村忠雄氏

参加者数：10 名

品質機能展開の様々な活用事例をご紹介いただいた。そして活用の状況に応じて、品質機能展開を有効に機能させるためのポイントを議論した。

3. 研究成果 (研究発表等)

The 1st East Asia Workshop on Industrial Engineering (広島大学)

- (1) Masamitsu Kiuchi, Kazushi Nagai, Kenichi Nakashima, “A study on the effects of client company information analysis on the on-site logistics and processes of the supplying company”, 日本経営工学会秋季大会予稿集, p273, 2014

品質機能展開の機能定義、二元表を用い、生産現場診断のための品質機能展開の活用例を示した。

2. 事業・市場部門

(部門長: 玉木欽也)

1. 概要

P.F. ドラッカーは、企業経営の究極的な目的は、顧客創造 (創造的なマーケティング) および事業創造 (事業イノベーション) と唱えている。

そこで本研究部門では、公的な事業活動を含めた企業活動について、「事業創造」と「顧客創造」、それらの実現に向けた「組織デザイン」さらに「ICT の利活用」に関する調査・研究に取り組んでいる。さらに、それらの調査・研究を踏まえて、事業・雇用創造を牽引できる新世代に向けた人材育成プログラムの研究開発にも着手していきたい。

特に、本研究部門では、日本経営工学会に将来に向けて新たな学術領域を開拓する志をもち、産学官学連携による組織体制づくりを基軸として、それらの調査・研究・開発を推進していくこととする。

2. 研究部門活動報告

- (1) 以下の研究プロジェクトの研究活動を支援した：

- ① 日本企業の再興とMOT研究会
② 集合知メカニズムとその応用研究会

特に、後者②の研究プロジェクトは、論文誌に特集号の企画を実現した。

- (2) 「業界構造・企業間関係、事業創造・事業戦略、顧客

創造・マーケティング、組織管理・人的資源管理、製品ライフサイクルマネジメント、ICT 利活用とセキュリティ」など本研究部門に関連する広範な領域におよぶ文献・事例・資料の調査研究を行った。

3. 研究成果（研究発表等）

- (1) 日本経営工学会 2014 年度秋季研究発表大会における研究部門 OS の実施
 - 1) 事業・市場研究部門の活動計画ーグローバル製品戦略ー
○玉木欽也（青山学院大学）、朴英元（東京大学）、阿部武志（青山学院大学）
 - 2) PLM に向けた製品キーマニ特性と品質作り込み作業管理
○丹羽紀人（名古屋工業大学）、岩本一将（名古屋工業大学）、越島一郎（名古屋工業大学）
 - 3) 高生産性に向けた混流生産ライン設計と作業設計
○河井智啓（名古屋工業大学）、和田拓巳（名古屋工業大学）、荒川雅裕（名古屋工業大学）
- (2) 1st East Asia Workshop on Industrial Engineering, Hiroshima, Japan, 2014、事業・市場研究部門 OS
 - 1) Investigation and Research for Global Product Strategy through Industry-University Project Group Activities :
*Kin'ya Tamaki, Young Won Park, Takeshi Abe, and Satoshi Goto
 - 2) A Framework of Integrated PLM System for International Production Strategy and Production Development:
* M. Arakawa (Kansai University)
 - 3) Real Time Measurement and Analysis of Iku-men Activities for Childcare Service Innovation and Challenge:
*Tetsuo Yamada, Shigehiro Sakurada, Masato Takanokura, Seiko Taki and Tasuku Sato

2-1. 日本企業の再興とMOT研究プロジェクト

(主査: 西村泰一)

1. 概要

日本の産業界及び学界で実際に活躍されているメンバーが、MOTに関係する手法の実際適用例や手法体系の整理、グローバルに展開する企業の経営資源の最適配置等の問題提起等タイムリーな話題を定例会で行い、それをもとに参加メンバーとの意見交換を通じて、問題の共有化と整理をした。

研究アプローチは、年間4～6回の検討会において、主査が課題に応じたテーマを設定し、講師がテーマに沿った事例・持論のプレゼンを行い、参加メンバーによる討議と問題の共有化をし、年度末に、その成果を主査が整理・報告書として残す事になっている。

今年度4回の研究プロジェクトでは延べ61名（平均15名/回）の参加者があった。

参加者は、オープン式であることから現役（メーカー系、コンサル系）企業人、大学、であることから現役（メーカー系、コンサル系）企業人、大学、元企業人等から構成されている。

2. 研究プロジェクト活動報告

本年度より名称を「日本型MOT研究会」から「日本企業の再興とMOT研究会」と変更し、合計4回の研究プロジェクトを開催した。

(1) 第1回研究プロジェクト

開催日：2014年6月21日（土）13：30～17：00

会 場：新宿西口工学院大学 28 階第3 会議室

テーマ：「MOTの開発のアプローチ」

講 師：㈱ニコン田中慶一氏

参加者：17 人

(2) 第2回研究プロジェクト

開催日：2014年8月23日（土）13：30～17：00

会 場：新宿西口工学院大学 28 階第3 会議室

テーマ：「MOTの開発のアプローチは、経営の基本そのもの」

講 師：㈱ジェーエヌエル岡崎宏行氏

参加者：12 人

(3) 第3回研究プロジェクト

開催日：2014年12月20日（土）13：30～17：00

会 場：新宿西口工学院大学 28 階第3 会議室

テーマ：「枠の中で考えるプロジェクト・マネジャーからの脱皮」

講 師：㈱イマテック顧問板倉稔氏

参加者：14 人

(4) 第4回研究プロジェクト

開催日：2015年3月7日（土）13：30～17：00

会 場：新宿西口工学院大学 28 階第2 会議室

テーマ：「グローバル・イノベーション創出プラットフォーム」

講 師：神鋼リサーチ㈱江口隆夫氏

参加者：18 人

3. 研究成果（研究発表等）

初年度に当たる平成26年度は4回の研究プロジェクトを通じて『日本企業が駄目になった理由・背景』について、事例等を踏まえて明らかにした。各回からの知見は次のとおり。

(1) 第1回：

半導体露光装置を例にとり、日本企業と欧州企業との戦略の差が大きなシェア逆転を招いてしまった事を研究した。

個々の最先端技術を終結した製品精度は日本の方がむしろ優れていた（部分最適）にも拘わらず、処理能力や稼働率、MTBF、保守性をも含めた総合評価で優位となる全体最適の考え方で負けた（つまり研究開発初期段階からの設計思想の違い）を認識した。

(2) 第2回：

そもそも「当たり前の事をやれているか、そしてそれを徹底出来ているか」という基本の大切さを再認識する事が大事であり、それを徹底している処に

は失敗事例は無いという実証的な説明から、失敗原因を見てみると、①ターゲットが明確で無い事、②ターゲットにとっての価値が確認出来ていない事、③競争優位仮説が1つでも成り立って無い事のどれかが一つでも欠けているという知見を共有した。

(3) 第3回：

情報システムやプロジェクト管理に長く携わっている講師は、日本が駄目になったのは「枠の中でしか考えない人々（プロジェクトマネージャ、技術屋）」が増えた事にあるとして、もしかしたら、それは老人包囲網が原因では無いだろうかという仮説を唱えた。

次代を担う若者達は、その「育ってきた環境」と「年寄りの包囲網」により考えさせない構造を形成してしまった、更にそのような「包囲網を育てる土壌」が相まって活性化の元になるべき日本の若者達が良い方向に育っていないと言う結論付けをした。

(4) 第4回：

従来、日本企業はトップダウン的な戦略や実行プロセスの策定や実行運用には、積極的に担当組織を置かず、軽視する傾向があった。これも、対象が国内市場では、ボトムアップ的な現場のビジネス推進で業績を挙げて来る事が出来たが、今後のグローバル組織ではトップダウンとボトムアップの両方によるビジネス推進が不可欠であり、グローバではトップダウンとボトムアップの両方によるビジネス推進が不可欠であり、グローバル市場でイノベーションを創出するためのビジネスインフラが欧米企業に比較して劣っている事が根本問題だという結論付けをした。

次年度の研究プロジェクトでは、これらの成果を踏まえつつ、それではどうしたら良いのかという『再興のための具体的シナリオ』にまで踏み込んだ議論・研究を継続する予定である。

2-2. 集合知メカニズムとその応用研究プロジェクト

(主査: 水山元)

1. 概要

本研究プロジェクトでは、集合知メカニズムの研究、開発者、推進者が集まり、集合知メカニズムに関する(科学的・工学的な)研究や、開発(・実用化)などを協力して推進したり、上記に関連した情報交換、勉強会、集合知メカニズムの啓蒙、PR、などを行う。

今年度は、昨年度に引き続き、「予測市場をはじめとする集合知メカニズムをどのように捉え、どのような興味や期待を持って、研究、開発、あるいはその他の形で、それに取り組んでいるのか。また、その今後の発展について、どのような展望を持っているのか。」などを、各メンバーが順に発表していき、それに基づいてディスカッションを行うという形式を継続するとともに、自分たちで何かを生み出して発信していく活動にも主眼を置くこととした。

2. 研究プロジェクト活動報告

(1) 日 時：2014年5月30日(金) 18:00～21:00

会 場：青学総研ビル10階17会議室

参加者：14名

1) 発表1：集合知と情報カスケード：実験経済物理学によるアプローチ

守 真太郎(北里大学)

2) 発表2：外国為替市場・株価指数市場における自己組織化臨界と集合知の発現

藤崎 均(元・UBS銀行)

(2) 日 時：2014年8月1日(金) 18:00～21:00

会 場：青学総研ビル10階17会議室

参加者：14名

1) 発表1：集合知と情報カスケードⅡ：市場メカニズムは機能する？

守 真太郎(北里大学)

2) 発表2：集合知メカニズム研究会でのCREST応募について

水山 元(青山学院大学)

(3) 日 時：2014年10月3日(金) 18:00～21:00

会 場：青学ガウチャーメモリアルホール5階13会議室

参加者：18名

1) 発表1：市場調査におけるベイジアン自己推定剤の活用

小野 滋(インサイト・ファクトリー)

2) 発表2：メディアラボの活動紹介

田森秀明(朝日新聞社メディアラボ)

(4) 日 時：2014年12月6日(金) 13:30～17:00

会 場：大阪大学中之島センター9階 特別会議室

参加者：8名

1) 発表1：新しい設計生産システムを見据えた集合知メカニズムへの期待

福重真一(大阪大学)

2) 発表2：複雑ネットワーク環境における情報拡散に関する一検討

藤井信忠(神戸大学)

(5) 日 時：2014年3月20日(金) 18:00～21:00

会 場：青学総研ビル7階12会議室

参加者：13名

1) 発表1：来年度の活動計画について

水山 元(青山学院大学)

2) 発表2：経済実験による有効期限を持つ財のダブルオークションメカニズムの分析

赤井研樹(東京大学)

3. 研究成果(研究発表等)

(1) JIMA 論文誌での和文特集号の編集、発行

(2) JIMA 秋季大会でのオーガナイズドセッション

(3) 他学会(SICE SSI2014)でのスペシャルセッション

(4) CREST(人間と調和した創造的協働を実現する知的情報処理システムの構築)への応募(不採択)

3. 人間・組織部門

(部門長: 野渡正博)

1. 概要

2015 年度の人間・組織研究部門では、春、秋の全国大会における部門オーガナイズドセッションを開催した。前年度の産学連携プロジェクトを踏まえ、春季大会 OS と、ユーザビリティをテーマとした秋季大会 OS がこれにあたる。また前年度に引き続き、専門家を講演者として招く水曜研究会を計 5 回開催した。

2. 研究部門活動報告

(1) 全国大会オーガナイズドセッション

1) 春季大会人間組織研究部門 OS「産学連携を考える」

5 月 17 日 (土) 東京理科大学野田キャンパス

オーガナイザー: 加藤麻樹 (早稲田大学), 司会: 三澤哲夫 (千葉工業大学)

オピニオンリーダー: 野渡正博 (玉川大学)

① 第一次産業「農業」と大学との連携

下平佳江 (長野県短期大学)

② お客様にお喜びいただける産学連携とは

白鳥典彦 (マイクロストーン株式会社)

③ サービス産業に置ける産学連携事例

新村 猛 (がんこフードサービス株式会社)

2) 秋季大会人間組織研究部門 OS「ユーザビリティ」

11 月 8 日 (土) 広島大学東広島キャンパス

司会: 加藤麻樹 (早稲田大学)

① wells (ウェルズ) 縦置き浴槽ユニットバスの開発 三上彩, 守谷淳, 山崎亜衣, 齊藤浩之 (積水ホームテクノ)

② VDT 作業中に提示される作業指示が作業者のメタ認知活動に及ぼす影響

高橋雄三, 古志祥子 (広島市立大学)

③ 自動車を操る感覚

西川一男 (マツダ)

(2) 水曜研究会 (東海大学高輪キャンパス)

1) 第 1 回水曜研究会 5 月 28 日 (水)

安全教育や事故防止対策の経験に基づく組織の在り方
講演: 川野政彦 (JP ハイテック安全品質環境管理部長)

司会: 松田文子氏 (労働科学研究所)

2) 第 2 回水曜研究会 7 月 16 日 (水)

デザイン要件を可視化する方法と製品開発への適用
講演: 池本浩幸 ((株)東芝デザインセンター)

司会: 辛島光彦 (東海大学)

3) 第 3 回水曜研究会 9 月 3 日 (水)

日系企業の海外拠点での人事・組織管理の現状と問題点
講演: 深井昌克 (名古屋大学)

司会: 上原 衛 (愛知淑徳大学)

4) 第 4 回水曜研究会 11 月 19 日 (水)

活力ある開発現場を創る組織マネジメント手法
講演: 太田大作 ((株)クロスオーバー)

司会: 野渡正博 (玉川大学)

5) 第 5 回水曜研究会 3 月 18 日 (水)

人間中心設計の組織制度化に関するアプローチ

講演: 平澤尚毅 (小樽商科大学)

司会: 加藤麻樹 (早稲田大学)

3. 研究成果 (研究発表等)

上記の部門 OS における研究発表を研究成果とする。なお、秋季大会における研究発表は 2015 年度の部門プロジェクトとして発展的に展開している。

4. サービス部門

(部門長: 吉本一穂)

1. 概要

今年度は、当初予定していたワークショップ、調査については実施に至らなかった。主な活動は、経営システム誌 24 巻 4 号、2015 年 1 月号の「経営工学的サービス研究—理論と実践—」特集の企画、秋季大会でのオーガナイズドセッション、講演会の実施である。

2. 研究部門活動報告

第 1 回

日 時: 2014 年 12 月 12 日 (金) 18:00~20:00

場 所: 早稲田大学 理工学部 51 号館 15 階 00 室

参加者: 6 名

(1) サービス研究部門の今後の方針に関する議論

サービス研究部門の今後の方針に関し、解散あるいは他部門との合併という案も含め議論した。これは規定の人数である 50 名を満たしていないこと (現在 46 名)、サービス研究部門の主な取り組み対象が「IE のサービス現場への適用」であるが、サービスに直接関連するテーマの設定が難しいのではないかという意見によるものである。

しかし、サービス研究部門の会員数は増加傾向にあることから、JIMA が戦略的にサービス研究部門を重視していることから、今後も活動を継続することが決定した。また活動方針として、会員数の増加に伴い、より幅広い活動への取り組みを行うことが決定した。例として、現在、筑波大の倉田久先生の研究プロジェクト (IE 技法の対人サービスへの応用の諸検討) の申請がサービス研究部門宛てにあり、その申請を受けることを予定している。

今後は、日本におけるサービサイジング (製品のサービス化) の実態調査、講演会の実施、上述した倉田久先生のプロジェクトの周辺テーマに取り組むことを予定している。

(2) 平成 27 年度の役職の決定

サービス研究部門における来期の幹事長、および部門長の推薦の決定を行った。幹事は斎藤氏が継続することが決まった。また今期で吉本先生が部門長を退かれることになったので、三原氏を部門長に推薦することに決定した。

3. 研究成果 (研究発表等)

(1) 経営システム誌特集企画

24 巻 4 号、2015 年 1 月号の「経営工学的サービス研

究－理論と実践－」

- (2) 2014 秋 JIMA 研究部門オーガナイズドセッション
テーマ：サービス部門～新サービス設計のために～
座長 三原康司（静岡理科大学）
- 1) IE・OR を用いた空港の保安検査業務の効率化-羽田
空港におけるケーススタディ-
大森 峻一（早稲田大学）
- 2) 新サービスビジネス開発のためのサービス技術表現方法
黒須誠治（早稲田大学）
- 3) 製品利用型サービスビジネスシステムのパターン
化による新ビジネスの設計
三原康司（静岡理科大学）
- (3) 講演会
日 時：2 月 27 日（金）18 時 00 分から 20 時 00 分
場 所：早稲田大学西早稲田キャンパス
参加者：16 名（サービス研究部門 5 名、その他 11 名）
- 1) アパレル小売りの生産性向上に RFID は寄与するのか
山内秀樹氏、山口賢史氏（日鉄住金物産（株））
- 2) 新サービスの創出
黒須誠治氏（早稲田大学大学院商学研究科教授）

5. 経営情報部門

（部門長：後藤正幸）

1. 概要

平成 26 年度の経営情報部門は、データ解析コンペティションの一部会として参加し、部門主催の形で「データ解析コンペティション JIMA 予選会」を開催した。JIMA 内外から、14 チームの参加を得て、中間発表会、最終成果発表会を通じ、各チームのデータ分析結果を報告すると共に活発な議論を行った。これらの各チームによる分析結果は、日本経営工学会春季大会において、研究部門オーガナイズドセッションとして成果報告を行うと共に、経営システム誌における特集号企画など、学会内外に成果を発信する予定である。

2. 研究部門活動報告

- (1) 2014 年 11 月 15 日：データ解析コンペティション JIMA 予選会中間報告会
場 所：統計数理研究所
参加チーム：13 チーム
参 加 者：36 名
- (2) 2015 年 2 月 28 日：データ解析コンペティション JIMA 予選会最終成果報告会
場 所：早稲田大学 西早稲田キャンパス
参加チーム：13 チーム
参 加 者：40 名
- (3) 2015 年 3 月 13 日：データ解析コンペティション
場 所：（株）リクルート・ホールディングス
JIMA 予選会で勝ち上がった 3 チームが、代表として本選会に参加
3. 研究成果（研究発表等）

平成 27 年日本経営工学会春季大会において、データ解析コンペティション・オーガナイズドセッションを企画し、計 6 件の成果発表を行う予定である。

また、経営システム誌 2015 年 10 月号にて、データ解析コンペティション特集を組む方向で準備を進めている。

5-1. マネジメント科学ビジョン研究プロジェクト

（主査：能勢豊一）

1. 概要

経営工学が持続的発展を遂げるために、情報×システム×経営工学×セキュリティの枠組みで経営工学の人材育成を論じる活動を事典をベースに新たな枠組みを創出することを目的とする。また、日本経営工学会、日本 IE 協会、日本技術士会、日本オペレーションズ・リサーチ学会の 4 団体が共有するビジョンを持ち、各団体が有する固有の強みを生かすミッションを社会に発信する。そのような「社会に役立つ経営工学」のビジョンとしては、経営工学のキャッチフレーズである「工学と経営の融合による価値創造」を形にする活動を社会に発信することを旨とする。

さらに、経営工学の役割を初等・中等教育に反映させる必要性を 4 団体が共有し、経営工学関連団体と足並みをそろえて、国の機関に提言することを究極の目的とする。そのために、経営工学の学問の独自性と他学問との関係性を深める「参照基準」を明らかにする活動を推進する。

2. 研究プロジェクト活動報告

- (1) 第 1 回 マネジメントビジョン 2014 会合
日 時：2014 年 11 月 9 日（日）15：25～16：40
場 所：広島大学工学部 107 講義室
出席者：八巻、寛、皆川、渡邊、小林、その他ラウンドテーブル出席の学会員
- (2) 第 2 回 マネジメントビジョン 2014 会合
日 時：2 月 5 日（木）15:00～17:00
場 所：大阪工業大学うめきたナレッジセンター
出席者：八巻、皆川、能勢

3. 研究成果（研究発表等）

- (1) 第 1 回 マネジメントビジョン 2014 会合
成果：学会員間で共有することのできるマネジメントビジョンを模索するラウンドテーブルを実施し、次年度に繋がる高校生を対象にしたビジョン策定作業の実施を固めた。
- (2) 第 2 回 マネジメントビジョン 2014 会合
内容：高校生にアプローチする教材を作成することを関東では寛先生、関西では皆川先生を中心とするグループを編成することが企画された。

5-2. IT 活用による次世代学習スタイル研究プロジェクト

（主査：石田崇）

1. 概要

本研究プロジェクトでは、大学教育における経営工学分野、特に統計学・情報分野と、語学教育、特に英語教育分野に焦点を絞り、IT を活用した学習を対象に将来の教育システムのあり方向を模索し、次世代学習

スタイルとそのシステムを構築することを目的としている。2014年度は、2013年度から継続して将来の授業形態について全員で議論を行い、協働学習、電子書籍などのサブグループにおいてe-learningを導入した新しい学習スタイルの開発・評価についての検討を行った。

2. 研究プロジェクト活動報告

- (1) 研究ワークショップ「ビッグデータ時代の Learning Analytics」
2014年9月1日(月) 14:30~2日(火) 12:00,
伊東園ホテルニューさくら(鬼怒川温泉) 6階会議室,
テクニカルセッション6件, 他発表2件. 参加者19名
- (2) 「次世代 e-learning」公開フォーラム(第5回)
2014年12月19日(金) 15:00~19:00,
早稲田大学早稲田キャンパス3号館7階701教室
テクニカルセッション3件, 招待講演2件(早稲田大 深澤良彰先生・中元誠氏, NTT サービスエボリューション研究所 加藤泰久氏).
- (3) 研究ワークショップ「Educational Data Mining と Learning Analytics」
2015年2月21日(土) 13:00~22日(日) 12:00,
伊東園ホテル熱海館 別館4階「さくら(左側)」
テクニカルセッション3件, 研究報告3件, パネルセッション4件, 招待講演1件(NTT サービスエボリューション研究所 加藤泰久氏). 参加者15名
- (4) 「次世代 e-learning 研究」シンポジウム(1), (2)
2015年3月19日(木) 9:30~12:00, 14:40~17:10,
京都大学吉田南総合館2F 共北28(情報処理学会第77回全国大会第6イベント会場)
講演8件, パネル討論.

3. 研究成果(研究発表等)

- (1) 小林学, 大谷真, 梅澤克之, 後藤正幸, 平澤茂一, “出席状況把握システム SAMS とその解析”, 経営情報学会 春季全国研究発表大会, (2014.5).
- (2) 新目真紀, 半田純子, 合田美子, 長沼将一, 玉木欽也, “情報通信サービス業を中心とした実践的インターンシップ実施時の産学連携体制に関する考察”, 教育システム情報学会 2014 年度第 1 回研究会, (2014.5).
- (3) 小泉大城, 須子統太, “統計基礎学修のためのブレンディッドラーニングの取り組み”, 私立大学情報教育協会, 平成 26 年度 I C T 利用による教育改善研究発表会, 東京, (2014.8).
- (4) Shigaichi Hirasawa, Makoto Nakazawa, Daiki Koizumi, and Tomoko Kondo, “Learning Styles for e-learning Systems over Virtual Desktop Infrastructure,” Proc. of the 2014 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics, pp.3248-3253, October 5-8, 2014, San Diego, CA, USA.
- (5) 中澤真, “Learning Analytics の現状と今後の課題”, 日本経営工学会平成 26 年度秋季大会, (2014.11).
- (6) 中澤真, 後藤正幸, 平澤茂一, “Learning Analytics における学習履歴の情報構造と粒度のあり方”, 日

本 e-learning 学会 第 17 回学術講演会, (2015.2).

- (7) 荒本道隆, 佐藤一裕, 中原歌織, 平澤茂一, “詳細な学習ログを用いた英語リーディング過程の分析~(1)リーディング過程の可視化~, ” 情報処理学会第 77 回全国大会, 京都, (2015.3)
- (8) 中野美知子, 吉田諭史, 須子統太, 玉木欽也, ギエルモ エンリケズ, “詳細な学習ログを用いた英語リーディング過程の分析(2) ログデータから見た成績との関係, 情報処理学会第 77 回全国大会, 京都, (2015.3)
- (9) 中澤真, 梅澤克之, 小林学, 小泉大城, 後藤正幸, 平澤茂一, “詳細な学習ログを用いた英語リーディング過程の分析~(3)リーディング過程における学習者モデル~, ” 情報処理学会第 77 回全国大会, 京都, (2015.3)
- (10) 梅澤克之, 小林学, 石田崇, 中澤真, 荒本道隆, 平澤茂一, “自習時のログ情報に基づく効率的な反転授業について, ” 情報処理学会第 77 回全国大会, 京都, (2015.3)
- (11) 小泉大城, 須子統太, 平澤茂一, “電子教材とワークシートを用いた統計基礎教育におけるブレンディッドラーニングに関する一考察, ” 情報処理学会第 77 回全国大会, 京都, (2015.3)
- (12) 近藤悠介, “日本人英語学習者の短い発話を自動採点するシステムの実現可能性の検討, ” 情報処理学会第 77 回全国大会, 論文集, 京都, (2015.3)
- (13) 隈裕子, 佐野琴音, “オンライン大学における日本語リテラシー教育の取り組み その 2 受講生の主観評価調査, ” 情報処理学会第 77 回全国大会, 京都, (2015.3)
- (14) 中谷祐介, 隈裕子, 尾崎明仁, “環境教育分野における建物性能評価ツールに対するユーザ支援システムの構築, ” 情報処理学会第 77 回全国大会, 京都, (2015.3)
- (15) 吉田諭史, ギエルモ エンリケズ, 中野美知子, “言語学理論に基づいた英語学習者向けデジタル教材と HTML ウィジェットの開発, ” 情報処理学会第 77 回全国大会, 論文集, 京都, (2015.3)

6. 経営数理部門

(部門長: 中出康一)

1. 概要

ベイジアン・ネットワークは因果関係をノードとリンクにより表現したもので、事前確率とエビデンス設定を行って計算される事後確率の変化により感度分析を行うことができる。本研究は、事前に設定した仮説に対して、クロス集計とベイジアン・ネットワークによる分析とあわせて検証を行った。

2. 研究部門活動報告

- (1) 2014 年 10 月 4 日 大阪工業大学
第 1 回ベイジアン・ネットワーク研究会において、以下の 2 つの講演を頂いた。
1) テーマ 1: 「ベイジアンネットワーク研究ーその概要

と今後の可能性について」

講演者：常葉大学 経営学部 教授 竹安 数博

- 2) テーマ 2：「ベイジアンネットワークを用いた分析結果と今後の展望」

講演者：㈱チェリッシュ 代表取締役 石尾 知恵

参加者：9名

- (2) 2014 年 10 月 12 日～15 日 APIEMS 国際会議

オーガナイズドセッションを企画し、8 件発表した。

- (3) 2015 年 11 月 8 日 JIMA 秋季研究大会

部門セッションを設け、3 件発表した。

- (4) また、3 月 7 日には、大阪工業大学において、部門会議と研究講演会を開催した。

3. 研究成果（研究発表等）

ベイジアン・ネットワーク応用に関連したモデル構築の方法と各種手法の改善に関する研究成果を得た。

10/4 研究会 講演 2 件

10/12～15 APIEMS のオーガナイズドセッション 8 件

11/8 JIMA 秋季大会 部門セッション 3 件

3/7 研究会 講演 2 件

6-1. ベイジアンネットワーク応用研究プロジェクト

(主査：竹安数博)

1. 概要

ベイジアン・ネットワークは、大量のデータを分析して商品推薦などに有効に用いられ、複数のデータ間の関係を同時に考察することができるので、効果的なマーケティングを行うことが可能となる。

2 回の研究会を実施した。

2. 研究プロジェクト活動報告

(1) <第 1 回研究会>

開催日：2014 年 10 月 4 日（土）13:30～16:30

会場：大阪工業大学うめきたナレッジセンター

- 1) テーマ 1：「ベイジアンネットワーク研究—その概要と今後の可能性について」

講演者：常葉大学 経営学部 教授 竹安 数博

- 2) テーマ 2：「ベイジアンネットワークを用いた分析結果と今後の展望」

講演者：㈱チェリッシュ 代表取締役 石尾 知恵

参加者：9名

(2) <第 2 回研究会>

開催日：2015 年 3 月 7 日（土）13:30～16:30

会場：大阪工業大学うめきたナレッジセンター

- 1) テーマ 1：「マーケティングの新潮流（ブランド構築の最近の取組事例から）」

講演者：大妻女子大学短期大学部 教授 甲斐荘 正晃

- 2) テーマ 2：「SNS の普及とパターン分析」

講演者：学校法人常翔学園広報室 油井 毅

3. 研究成果（研究発表等）

- (1) H.26 年 日本経営工学会秋季大会 オーガナイズド

セッション

H.26 年 日本経営工学会秋季大会でオーガナイズドセッションを設け、3 件のうち、本研究会関係では 2 件発表（下記のうち、上側 2 件）

2014 秋 JIMA 研究部門 OS 経営数理部門

座長氏名(所属) Kazuhiro Takeyasu(Tokoha University)

- 1) "Intermittent Demand Forecasting in the Case of Medical Apparatus"

Kazuhiro Takeyasu(Tokoha University), Daisuke Takeyasu(The Open University of Japan)

- 2) "The Method to improve Forecasting Accuracy by Using Neural Network -An Application to the Stock Market Price Data"

Yuki Higuchi(Setsunan University), Yuta Tsuchida(Osaka Prefecture University), Kazuhiro Takeyasu(Tokoha University)

- 3) 修理量に依存した運用費用をもつ部品の最適修理取替政策

御厨洋晶（名古屋工業大学）、中出康一（名古屋工業大学）

(2) APIEMS

第 15 回 APIEMS でオーガナイズドセッションを設け、8 件発表した。

The 15th Asia Pacific Industrial Engineering and Management Systems Conference (APIEMS 2014)

October 12–15, 2014, Ramada Plaza Jeju Hotel | Jeju, Republic of Korea

Organized Session: SCM and Forecasting

Organizer: Kazuhiro Takeyasu, Tokoha University, Japan

- 1) Hirotake Yamashita, Kazuhiro Takeyasu: Building BTO System in the Sanitary Materials Manufacturer Under the Improvement of Forecasting Accuracy

- 2) Yuki Higuchi, Hiromasa Takeyasu, Kazuhiro Takeyasu: A Hybrid Method to Improve Forecasting Accuracy with An Application to the Data of Bread

- 3) Hirotake Yamashita, Kazuhiro Takeyasu: Reformation of Production System Under the Implementation of DemandForecasting

- 4) Etsuko Kusakawa: Optimal operation for green supply chain with quality of recyclable parts and contract for recycling activity

- 5) Daisuke Takeyasu, Kazuhiro Takeyasu: Utilization of Genetic Algorithm to Improve Forecasting Accuracy in the Case of A Tube and A Catheter –

- 6) Asami Shitara, Daisuke Takeyasu, Kazuhiro Takeyasu: Improving Forecasting Accuracy in the Case of Intermittent Demand Forecasting

- 7) Kazuhiro Takeyasu, Komei Suzuki: Forecasting utilizing a Day of the Week Index in the Case of Café

- 8) Kazuhiro Takeyasu, Jun Tatebayashi: A Hybrid Method to Improve Forecasting Accuracy In the Case of Japanese Food Restaurant

- (3) H.27 年日本経営工学会秋季大会 オーガナイズドセッション

H.27 年日本経営工学会秋季大会でオーガナイズドセッションを持つ予定

(5) 内外の関連機関との連携及び交流（定款第 4 条第 5 号）

活動報告

1. 国際会議及び協賛学会情報を学会ホームページ及びメールマガジンにより提供した。
2. IFPR(ICPR)に関する第 23 回マニラ（フィリピン）会議開催の案内を行った。
3. APIEMS（第 15 回会議）の広報を行った。
4. 日本工学会へ協力した。
5. 横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)へ協力した。
6. 経営関連学会協議会へ協力した。
7. 経営工学関連学会協議会へ協力した。
8. 日本技術士会と CPD 活動で連携した。
9. 日本 IE 協会との連携情報を提供した。
10. 中小企業診断協会との連携情報を提供した。
11. 日本技術者認定機構（JABEE）へ協力した。
12. 日本工学教育協会へ協力した。

(6) その他前条の目的を達成するに必要な事業（定款第 4 条第 6 号）

特になし

2. 処務の概要

(1) 役員等に関する事項

平成 27 年 3 月末現在

職 名	常非別	氏 名	就任（重任）年月日	担当職務	報酬	現 職	備考
会 長	非常勤	河野宏和	平成 25 年 5 月 18 日	業務の総括	無	慶應義塾大学教授	
副会長	〃	高橋勝彦	〃	会長の補佐	〃	広島大学教授	
副会長	〃	二ノ宮滋	〃	会長の補佐	〃	日本 IE 協会	
理 事	〃	篠田心治	〃	庶務（広報）	〃	成蹊大学教授	
理 事	〃	松林伸生	〃	庶務	〃	慶應義塾大学准教授	
理 事	〃	西口宏美	〃	財務	〃	東海大学准教授	
理 事	〃	伊呂原隆	〃	研究・表彰	〃	上智大学教授	
理 事	〃	中出康一	〃	大会・企画・行事	〃	名古屋工業大学教授	
理 事	〃	後藤正幸	〃	編集（論文誌・経営システム誌）	〃	早稲田大学教授	
理 事	〃	熊谷 敏	〃	会員・調査・人材育成	〃	青山学院大学教授	
理 事	〃	有菌育生	〃	支部	〃	岡山大学教授	
理 事	〃	石井和克	〃	国際渉外（国際）	〃	金沢工業大学教授	
理 事	〃	皆川健多郎	〃	国 際 渉 外 （ 渉 外 ・ JABEE・FMES）	〃	大阪工業大学准教授	
監 事	〃	開沼泰隆	〃	監事	〃	首都大学東京准教授	
監 事	〃	水山 元	〃	監事	〃	青山学院大学准教授	

(2) 職員に関する事項

平成 27 年 3 月末現在

なし

26 年度社員（会員）異動状況報告書
(平成 27 年 3 月 31 日現在)

26 年 3 月末社員数 44
25 年 3 月末社員数 44
増減なし

支部	正会員	正会員 (賛助代表)	学生会員	賛助会員	名誉会員	支部計
東北・北海道	47	0	2	1	0	50
北関東	68	0	8	0	0	76
東関東	81	0	11	0	2	94
西関東	472	3	40	7	15	537
中部	105	2	5	6	2	120
北陸	40	0	0	0	0	40
関西	175	2	8	4	7	196
中国四国	82	2	12	2	2	100
九州	45	0	1	0	0	46
海外	4	0	0	0	0	4
合計	1,118	9	87	20 社/22 口	28	1,262
前年度末	1,186	9	97	21 社/22 口	26	1,339
増減	-68	0	-10	0 社/0 口	+2	-77

(3) 会議等に関する事項

1) 理事会

平成 26 年度の活動として、学会の活性化と国際化を目指し、産学協同、学会交流の強化、会員増加、会員へのサービスの好適化を目指し下記の事業を執行した。

開催（回数、年月日、場所）、議事事項、会議の結果

第 32 期第 6 回

平成 26 年 5 月 16 日（金），17:00～20:00

東京 21c クラブ ローズウッド 1&2

議決事項

1. 第 32 期第 5 回理事会議事録の確認の件
2. 入会承認の件
3. 平成 25 年度事業報告の件
4. 平成 25 年度決算案の件
5. 総会資料の件
6. 特定資産「創立 70 周年記念事業準備金」取扱細則の件
7. 東アジアワークショップについて

以上 7 件について全会一致で承認・可決した。

協議事項

1. 支部予算の扱いについて

以上 1 件について協議した。報告事項は 6 件である。

第 32 期第 7 回

平成 26 年 7 月 12 日（土），15:00～18:00

慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館 5 階大会議室

議決事項

1. 第 32 期第 6 回理事会議事録の確認の件
2. 入会承認の件
3. 次期役員及び代議員選挙について
4. JIMA 秋季大会の当日スケジュールについて
5. 大会のネットワーキングについて
6. 他団体年会費支払いについて
7. 貸金庫の廃止とネットバンキング導入について
8. 経営情報部門によるデータ解析コンペ JIMA 予選会開催、並びに研究部門 Web ページ設置について

以上 8 件について全会一致で承認・可決した。

協議事項

1. 経理細則の改定について
2. 「第 3 レフェリー」の選定に関する件について（中間報告）
3. JIMA 国際化タスク進捗報告について
4. 2014 春季大会ラウンドテーブル結果と次回テーマ協議について

以上 4 件について協議した。報告事項は 6 件である。

第 32 期第 8 回

平成 26 年 9 月 20 日（土），15:00～18:00

慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館 5 階大会議室

議決事項

1. 第 32 期第 7 回理事会議事録の確認の件
2. 入会承認の件
3. 次期役員・代議員選挙の件
4. 経理細則改定の件
5. 東アジア IE ワークショップの発表申込締切後の申込追加について

以上 5 件について全会一致で承認・可決した。

協議事項

1. JIMA 国際化タスクの施策について
 2. 著作権の順守ならびに二重投稿に関するルールについて
- 以上 2 件について協議した。報告事項は 9 件である。

第 32 期第 9 回

平成 26 年 11 月 7 日（金），18:00～19:30

RCC 文化センター 612 号室

議決事項

1. 第 32 期第 8 回理事会議事録の確認の件
2. 入会承認の件
3. 二重投稿の件ならびに和文執筆細則改定の件

以上 3 件について全会一致で承認・可決した。

報告事項は 10 件である。

第 32 期第 10 回

平成 27 年 1 月 10 日（土），15:00～18:00

慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館 5 階大会議室

議決事項

1. 第 32 期第 9 回理事会議事録の確認の件
2. 入会承認の件
3. 大会の運営について
4. JIMA 論文誌 経営システム誌の販売価格について
5. 横幹連合の理事改選について

以上 5 件について全会一致で承認・可決した。

協議事項

1. 表彰規則の改定について
2. 学生優秀発表賞の創設について
3. 特別賞細則の改定について
4. 表彰委員会の来年度予算案について
5. 研究委員会（研究部門）の来年度予算案について
6. 2014 年秋季大会ラウンドテーブルの結果について

以上 6 件について協議した。報告事項は 7 件である。

第 32 期第 11 回

平成 27 年 3 月 14 日（土），15:00～18:00

慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館 5 階大会議室

議決事項

1. 第 32 期第 10 回理事会議事録の確認の件
2. 入会、会員権利喪失承認の件
3. 名誉会員推薦候補者の件
4. 平成 27 年度事業計画の件
5. 平成 27 年度予算案の件
6. 平成 26 年度表彰の件
7. 表彰規則改定の件
8. 特別賞細則改定の件
9. 平成 27 年度通常総会の開催について

以上 9 件について全会一致で承認・可決した。

報告事項は 13 件である。

2) 総会

平成 26 年度定時総会

2014 年春季大会において開催され、以下の報告審議が行われた。

平成 26 年 5 月 18 日（日）13:30～14:50

東京理科大学 野田キャンパス

報告事項

- (1) 平成 25 年度事業報告、収支決算報告及び平成 25 年度学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告に関する件
- (2) 監査報告に関する件
- (3) 平成 26 年度事業計画、収支予算報告に関する件

審議事項

- 第一号議案 平成 25 年度事業報告及び収支決算の件
- 第二号議案 規程改定の件
- 第三号議案 名誉会員の推戴の件
- 第四号議案 会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件

3) 各種委員会

1. 庶務委員会

理 事：篠田心治、松林伸生

委員長：降旗徹馬

委 員：大久保寛基、竹本雅憲、西岡久光、平井裕久

1. 委員会の開催

(1) 第 1 回 委員会

開催日：2014 年 5 月 18 日（日）12:10～13:00

場 所：東京理科大学

議 題：

- 1) 本日の総会の運営について
- 2) 選挙規則の改訂について
- 3) 英語版 Web の改訂について
- 4) その他

出席者：7 名（篠田・松林・降旗・大久保・竹本・西岡・平井）

(2) 第 2 回 委員会

開催日：2015 年 1 月 24 日（土）13:00～15:00

場 所：成蹊大学

議 題：

- 1) 次年度計画の策定
- 2) Web の更新についての検討
- 3) メールマガジン投稿要領の修正
- 4) その他

出席者：4 名（篠田・降旗・大久保・西岡）

2. HP の更新

2014 年度学会 Web の修正点（庶務委員会による更新履歴）は次のとおりである。

- (1) English サイトの『Member List』ページの更新（2014 年 5 月 18 日）
- (2) English サイトの『トップページ』（Mission の掲載）の更新、『About JIMA』ページのコンテンツ整理（2014 年 6 月 5 日）
- (3) 日本語サイトの『トップページ』に「2014 年度春季大会特別セッションについて」を掲載（2014 年 7 月 7 日）
- (4) 日本語サイトの『トップページ』に「ラウンドテーブルの結果報告」を掲載、『大会』ページの「過去の研究大会」に「2014 年度春季大会」を追加（2014 年 7 月 20 日）
- (5) 日本語サイトの『トップページ』および『大会』ページに「2014 年 JIMA 秋季大会ラウンドテーブルについて」を掲載（2014 年 10 月 1 日）
- (6) 日本語サイトの『トップページ』に「2014 年度秋季大会『ラウンドテーブル』の実施報告と参加御礼」を

掲載、『大会』ページの「過去の研究大会」に「2014 年度秋季大会」を追加（2014 年 11 月 21 日）

- (7) 日本語サイトの『トップページ』に「2014 年度秋季大会『ラウンドテーブル』の参加御礼と結果報告」を掲載、『大会』ページの「過去の研究大会」に「2014 年度秋季大会」の更新（2015 年 1 月 14 日）

※メールマガジン発行に関する検討および記事内のチェックは、毎回発行前（1 日、15 日発行）前にメールで審議を行った。また、第 33 期役員（会長、理事、監事）及び代議員の選挙を遂行した。

2. 研究委員会

理 事：伊呂原隆

委員長：中島健一

委 員：鈴木定省、玉木欽也、斉藤文、後藤正幸、加藤麻樹、孫晶、木内正光、蓮池隆

1. 活動報告

学会活性化のための方策として、2014 年 11 月の秋季大会（広島大学）において、すべての研究部門が同一時間帯に全 6 会場を利用して OS (Organized Session)「横串 OS」を開催した。

学会国際化のための方策として、研究部門による英語 OS を次のとおり開催した。

- (1) 2014 年 JIMA 春季大会（生産・物流部門）、
- (2) 2014 年 JIMA 秋季大会と同時開催の EAWIE(East Asia Workshop on Industrial Engineering)（生産・物流部門）、
- (3) APIEMS2014（済州島・韓国）（生産・物流、経営数理部門）

上記のほか、研究プロジェクトの一般会員からの公募制スタート、採用された研究プロジェクトの JIMA Web ページからの情報提供、各部門・プロジェクトの講演会情報などをメールマガジンから配信することのルール化などを実行した。

2. 委員会の開催

(1) 第 1 回

開催日：2014 年 5 月 18 日

場 所：東京理科大学 野田キャンパス

議 題：

- 1) 研究部門活動の方向性について
- 2) 部門登録の意義と対応策について

出席者：伊呂原、中島、加藤、後藤、斎藤、孫、玉木、蓮池

(2) 第 2 回

開催日：2014 年 11 月 8 日

場 所：広島大学 東広島キャンパス

議 題：

- 1) 次年度の研究部門セッションについて
- 2) 部門予算について
- 3) 今後の委員会業務予定について
- 4) その他

出席者：伊呂原、中島、加藤、後藤、蓮池

(3) 第 3 回

開催日：2015 年 3 月 12 日

場 所：上智大学 四谷キャンパス

議 題：

- 1) 研究部門および研究プロジェクト報告について

2) 次年度の予算申請について

3) その他

出席者：伊呂原、中島、後藤、木内

3. 日本経営工学会論文誌編集委員会

理 事：後藤正幸

委 員 長：鈴木淳

副委員長：青木洋貴、新行内康慈

委 員：秋葉知昭、荒川雅裕、稲田周平、加藤麻樹、
小林稔、斎藤正武、鈴木誠、滝聖子、高橋啓、
竹野健夫、竹本康彦、西内信之

1. 日本経営工学会論文誌（Journal of Japan Industrial Management Association）和文号、Vol.65, No.1～No.4 を冊子体として発行した。

原著論文（理論・技術）19 件、原著論文（事例研究）10 件、研究速報 1 件を収録した。

2. 日本経営工学会論文誌（Journal of Japan Industrial Management Association）英文号、Vol.64, No.2E,4E を CD-ROM として発行した。

招待論文 5 件、論文（理論・技術）1 件を収録した。

3. 第 32 期の編集委員会体制として、2014 年度の編集委員会を以下のように開催し、論文の査読状況を確認するとともに、編集方針等の各議題について協議した。

(1) 第 31 期 第 8 回 委員会

開催日：2014 年 4 月 10 日（木）18:00～20:00

場 所：学会誌刊行センター（東京都・文京区）

議 題：

- 1) 査読プロセスのフォローについて
- 2) Web 掲載状況の確認
- 3) 掲載決定済み論文の確認
- 4) 「第三レフェリー」の選定基準について
- 5) LaTeX スタイルファイルの更新について
- 6) 特集号の企画について
- 7) 掲載料の金額変更と海外著者の「前払い」について
- 8) その他

出席者：後藤(理事)、鈴木淳(委員長)、新行内(副委員長)、秋葉、高橋、西内、室(事務局) (7 名)

(2) 第 32 期 第 9 回 委員会 (エリアエディタ合同会議)

開催日：2014 年 5 月 18 日（日）12:00～13:00

場 所：東京理科大学 野田キャンパス

議 題：

- 1) 「第三レフェリー」の選定基準について
- 2) エリアエディタへの論文担当依頼時の文面の改訂について
- 3) レフェリー依頼文書の改訂と査読情報開示について
- 4) 研究速報の取り扱いについて
- 5) その他

出席者：後藤(理事)、鈴木淳(委員長)、新行内(副委員長)、秋葉、小林、高橋(啓)、竹野、竹本 (8 名)

エリアエディタ出席者：水山、上原、金子、高橋(勝)、山本、松林、関、有菌、金川、石田、堀川 (11 名)

(3) 第 32 期 第 10 回 委員会

開催日：2014 年 6 月 26 日（木）18:00～21:00

場 所：学会誌刊行センター（東京都・文京区）

議 題：

- 1) 査読プロセスのフォローについて

2) Web 掲載状況の確認

3) 特集号（テーマ：集合知）の状況報告

4) 第三レフェリーの選定基準について

5) 論文誌執筆細則の改訂について

6) 特集号企画について

7) 「エリアエディタ制の運用内規」の改訂について

8) 研究速報用チェックシートの改訂について

9) その他

出席者：後藤(担当理事)、鈴木淳(委員長)、青木(副委員長)、新行内(副委員長)、秋葉、加藤、高橋、室(事務局) (8 名)

(4) 第 32 期 第 11 回 委員会

開催日：2014 年 8 月 1 日（金）18:00～20:00

場 所：学会誌刊行センター（東京都・文京区）

議 題：

- 1) 査読プロセスのフォローについて
- 2) Web 掲載状況の確認
- 3) 特集号（テーマ：集合知）の状況報告
- 4) 委員会ウェブページの掲載情報について
- 5) 平成 26 年度「J-STAGE 投稿審査システム」新規利用誌募集について
- 6) 「エリアエディタ制の運用内規」の改訂について
- 7) その他

出席者：後藤(担当理事)、鈴木淳(委員長)、青木(副委員長)、新行内(副委員長)、秋葉、加藤、高橋、室(事務局) (8 名)

(5) 第 32 期 第 12 回 委員会

開催日：2014 年 9 月 12 日（金）18:00～20:30

場 所：学会誌刊行センター（東京都・文京区）

議 題：

- 1) 査読プロセスのフォローについて
- 2) Web 掲載状況の確認
- 3) 掲載決定済み論文の確認
- 4) 特集号の状況報告
- 5) 論文の著作権遵守と「二重投稿」に関する件について
- 6) 「第三レフェリー」の選定について
- 7) 学会ウェブサイト論文誌ページの更新について
- 8) J-STAGE 投稿審査システムについて
- 9) TeX スタイルファイルの更新について
- 10) その他

出席者：後藤(担当理事)、鈴木淳(委員長)、鈴木誠、高橋、竹本、室(事務局) (6 名)

(6) 第 32 期 第 13 回 委員会

開催日：2014 年 10 月 14 日（金）18:00～20:30

場 所：学会誌刊行センター（東京都・文京区）

議 題：

- 1) 査読プロセスのフォローについて
- 2) Web 掲載状況の確認
- 3) 掲載決定済み論文の確認
- 4) 特集号投稿状況について
- 5) 「統計的データ解析」特集号の投稿締切延長について
- 6) 二重投稿について
- 7) 執筆細則の改訂について
- 8) エリアエディタ・編集委員会合同会議での査読プロセスのフォローについて
- 9) その他

出席者：後藤(担当理事)，鈴木淳(委員長)，新行内(副委員長)，秋葉，荒川，稲田，加藤，高橋，室(事務局) (9名)

(7) 第32期 第14回 委員会(エリアエディタ合同会議)

開催日：2014年11月8日(金) 18:00～20:30

場 所：広島大学 東広島キャンパス

議 題：

- 1) 「第三レフェリー」の選定規準について
- 2) エリアエディタ名簿の Web 掲載について
- 3) 論文審査プロセスに関する意見交換
- 4) 著作権遵守と二重投稿について (報告事項)
- 5) J-STAGE 投稿審査システムについて
- 6) その他

出席者：後藤(理事)，鈴木淳(委員長)，青木(副委員長)，稲田，高橋(啓)，竹本 (6名)

エリアエディタ出席者：有薗，水山，金子，瀬尾，西口 (5名)

(8) 第32期 第15回 委員会

開催日：2014年12月18日(金) 18:00～20:30

場 所：学会誌刊行センター (東京都・文京区)

議 題：

- 1) 査読プロセスのフォローについて
- 2) Web 掲載状況の確認
- 3) 掲載決定済み論文の確認
- 4) 特集号投稿状況について
- 5) 特集号の企画について
- 6) 執筆細則の改訂について
- 7) 二重投稿に関連する投稿書類の様式について
- 8) その他

出席者：後藤(担当理事)，鈴木淳(委員長)，新行内(副委員長)，秋葉，荒川，高橋，室(事務局) (6名)

(9) 第32期 第16回 委員会

開催日：2015年1月23日(金) 18:00～20:30

場 所：学会誌刊行センター (東京都・文京区)

議 題：

- 1) 査読プロセスのフォローについて
- 2) Web 掲載状況の確認
- 3) 掲載決定済み論文の確認
- 4) 特集号投稿状況について
- 5) 特集号の企画について
- 6) 表彰について
- 7) 平成27年度の委員会予算案について
- 8) その他

出席者：後藤(担当理事)，鈴木淳(委員長)，新行内(副委員長)，加藤，高橋 (5名)

(10) 第32期 第17回 委員会

開催日：2015年3月23日(月) 18:30～20:30

場 所：学会誌刊行センター (東京都・文京区)

議 題：

- 1) 査読プロセスのフォローについて
- 2) Web 掲載状況の確認
- 3) 掲載決定済み論文の確認
- 4) 特集号投稿状況について
- 5) 特集号の企画について
- 6) 論文で使用された情報の公開性について
- 7) その他

出席者：後藤(担当理事)，鈴木淳(委員長)，新行内(副委員長)，秋葉，小林，鈴木誠，高橋，滝，竹本，室(事務局) (10名)

4. 企画行事委員会

理 事：中出康一

委員長：八巻直一

委 員：片岡隆之、篠田心治、森川克己、渡邊一衛、小酒井正和、水野信也、能勢豊一、堀内孝男、渋谷貞雄

1. 委員会の開催

(1) 第1回 委員会

開催日：2014年5月17日(土) 12:00～13:00

場 所：2014年度春季大会会場

議 題：

- 1) ラウンドテーブルについて
- 2) 団体連携事業について
- 3) その他

出席者：6名

(2) 第2回 委員会

開催日：2014年7月7日(月) 14:00～16:00

場 所：青山 Hicon 会議室

議 題：

- 1) 秋のラウンドテーブルの進め方
- 2) IE 協会年次大会への参加について

出席者：8名

(3) 第3回 委員会

開催日：2014年9月15日(月) 14:00～16:00

場 所：CIC(静岡大学事務所)

議 題：

- 1) ラウンドテーブル実施について

出席者：8名

5. 人材育成委員会

理 事：熊谷敏

委員長：渡邊一衛

委 員：笈宗徳、島田豊、玉木欽也、皆川健多郎

1. 委員会の開催

(1) 企画行事/人材育成委員会合同委員会

開催日：2014年7月7日(月) 14:00～15:30

場 所：青山学院大学 Hicon

出席者：8名

(2) 企画行事/人材育成委員会合同委員会

開催日：2014年11月9日(月) 12:00～13:00

場 所：広島大学 東広島キャンパス

2. 実践教育プログラム

(1) 実践教育プログラム(実践教育現場実習)

開催日：2014年8月27(水)～8月29日(金)

場 所：サンデン株式会社

議 題：現場実習(現場調査、討論会、発表会)

出席者：教員3名 参加学生12名

(2) 実践教育プログラム(実践教育現場研修)

開催日：2014年8月8日(金) 13:00～16:30

場 所：味の素株式会社川崎工場

議 題：現場研修(見学会、討論会、発表会)

出席者：教員8名 参加学生9名

- (3) 実践教育プログラム(実践教育現場研修)
開催日：2014年9月1日(月) 13:00～16:30
場 所：アズビル株式会社伊勢原工場
議 題：現場研修(見学会、討論会、発表会)
出席者：教員6名 参加学生9名
3. 「技術士を目指そう」説明会
経営工学3団体(日本技術士会経営工学部会、日本経営工学会、日本IE協会)による説明会開催。
- (1) 開催日：2014年12月20日(土) 13:30～16:30
場 所：青山学院大学
出席者：37名
議 題：
1) 国家資格「技術士」について
2) 技術士による体験談
3) 「経営工学科会」の取り組み
4) 受験のポイント
5) ジャンル別相談会
- (2) 開催日：2015年2月7日(土) 13:30～16:30
場 所：大阪工業大学うめきたナレッジセンター
出席者：17名
議 題：
1) 国家資格「技術士」について
2) 技術士による体験談
3) 「経営工学科会」の取り組み
4) 受験のポイント
5) ジャンル別相談会

6. 会員委員会

理 事：熊谷敏
委員長：辛島光彦
委 員：市川博、笠松慶子、加藤麻樹、椎原正次、
田畑智章、堀内俊幸

1. 委員会の開催

- 開催日：随時
場 所：メールによる審議
議 題：
1) 入退会申請の確認
2) 名誉会員候補者の確認
3) システム誌掲載の追悼記事について

7. 財務委員会

理 事：西口宏美
委 員：上原衛、田畑智章、白井裕

(1) 第1回 委員会

- 開催日：2015年3月
場 所：メールによる審議
議 題：
1) 平成27年度予算について
2) 平成26年度決算について
3) その他

8. 表彰委員会

理 事：伊呂原隆
委員長：片山直登
委 員：有菌育生、稲田周平、石垣綾、熊谷敏、後藤正幸、
鈴木淳

1. 委員会の開催

(1) 第1回

開催日：2014年5月17日(日) 12:20～13:20
場 所：東京理科大学
議 題：

- 1) 論文賞、論文奨励賞の受賞対象者の規則
- 2) 大会における学生優秀賞研究発表の表彰
- 3) 受賞候補者における理事の取り扱い

出席者：伊呂原、後藤、鈴木、石垣、稲田、有菌、片山

(2) 第2回

開催日：2014年11月9日(日) 12:00～12:50
場 所：広島大学
議 題：

- 1) 表彰規則の改正
- 2) 学生優秀研究発表賞の創設
- 3) 表彰細則の改正
- 4) 学会賞(学術・功労)の公募案内
- 5) 実践賞、システム賞の送付書類
- 6) 学会賞推薦委員

出席者：伊呂原、後藤、鈴木、稲田、片山

(3) 第3回

開催日：2014年12月19日(金) 18:20～20:00
場 所：上智大学四谷キャンパス
議 題：

- 1) 論文賞・論文奨励賞の送付書類
- 2) 学会賞候補者推薦のための送付書類
- 3) 学生優秀発表賞要領
- 4) 来年度表彰委員会予算案

出席者：伊呂原、熊谷、石垣、稲田、片山

(4) 第4回

開催日：2015年1月29日(木) 18:20～21:50
場 所：上智大学四谷キャンパス
議 題：

- 1) 学会賞(学術、功労)第1次選考
- 2) 論文賞・論文奨励賞候補論文選考
- 3) 実践賞候補選考
- 4) 経営システム賞選考
- 5) 優秀学生賞推薦依頼書類
- 6) 学生優秀発表賞要領

出席者：伊呂原、熊谷、後藤、石垣、稲田、鈴木、片山

(5) 第5回

開催日：2015年2月26日(木) 18:00～20:30
場 所：上智大学四谷キャンパス
議 題：

- 1) 学会賞(学術、功労)最終候補者選考
- 2) 論文賞候補論文選考
- 3) 論文奨励賞候補論文選考
- 4) 実践賞候補選考
- 5) Best Presentation Awardの日程
- 6) 理事会提出用資料

出席者：伊呂原、熊谷、後藤、石垣、片山

9. 大会委員会

理 事：中出 康一
委員長：木内 正光
委 員：小村和彦、寛宗徳、楠川恵津子、白井裕、

長沢敬祐、八木英一郎

1. 研究発表大会

(1) 2014 年 春季研究大会

日 時：平成 26 年 5 月 17 日(土)～ 5 月 18 日(日)
会 場：東京理科大学 野田キャンパス
組織委員長：大和田 勇人
テ ー マ：「J IMA の国際化と活性化」

(2) 2014 年 秋季研究大会

日 時：平成 26 年 11 月 8 日(土)～11 月 9 日(日)
会 場：広島大学 東広島キャンパス
組織委員長：高橋 勝彦
テ ー マ：「アジア発グローバリゼーションと経営工学」

2. 委員会開催報告

(1) 第 1 回

開催日：平成 26 年 5 月 18 日(日)12:20 ～13:20
場 所：東京理科大学 野田キャンパス
議 題：

- 1) 2014 年秋季大会における韓国 IE 学会との共催イベント（開催 中国・四国支部）について
- 2) 研究部門の活動におけるプログラム編成への影響について
- 3) 大会参加者へ配布するネームプレートのデザイン変更に関して
- 4) 大会予算で執行可能なネットワーキングのドリンクサービスに関して

出席者：7 名

(2) 第 2 回

開催日：平成 26 年 5 月 19 日(月)～5 月 22 日(木)
場 所：メール審議
議 題：

- 1) 発表時間の変更について（15 分→30 分）
- 2) 大会の平日開催について

出席者：8 名

(3) 第 3 回

開催日：平成 26 年 9 月 4 日(木) 13:00～18:00
場 所：東海大学高輪キャンパス 1 号館 3 階会議室
議 題：

- 1) 2014 年秋季大会 大会プログラム編成
- 2) EAWIE 大会プログラム編成

出席者：4 名

(4) 第 4 回

開催日：平成 26 年 11 月 8 日(土)12:40～13:40
場 所：広島大学 東広島キャンパス
議 題：

- 1) 受付での入会受付について
- 2) 講演時間の 15 分+5 分以外の設定について
- 3) 部門オーガナイズドセッションの招待講師の扱いについて
- 4) 活性化タスクからの提案について

出席者：6 名

(5) 第 5 回

開催日：平成 27 年 1 月 19 日(月)
場 所：メール審議
議 題：

- 1) JIMA 大会事務局対応

出席者：8 名

(6) 第 6 回

開催日：平成 27 年 3 月 17 日(火) 13:00～16:00

場 所：東海大学高輪キャンパス 1 号館 3 階会議室
議 題：

- 1) 2015 年春季大会 大会プログラム編成

出席者：5 名

10. 国際・渉外委員会

理 事：石井和克、皆川健多郎

委 員 長：孫 晶

副委員長：大久保寛基(国内)、秋葉知昭(海外)

委 員：大森峻一、新里隆、鈴木潤平、徳丸宜穂、
中島健一、広谷大助、丸山友希夫、吉本一穂

1. 委員会

第 1 回 委員会

開催日：2014 年 11 月 8 日（土）12:30～13:45

場 所：広島大学

議 題：

- (1) JIMA の国際化のための方策について（国際化タスクフォースからの検討依頼事項）
- (2) JIS の生産管理用語の見直しについて
- (3) FMES, 横幹、日本工学会、経営関連協議会、日本工学教育協会との連携について
- (4) 第 32 期の活動のまとめと第 33 期への申し送り事項、
- (5) その他
- (6) 報告事項

1) APIEMS2015 および ICPR2015 について

2) その他

出席者：7 名

2. 平成 26 年度の主な活動結果

(1) APIEMS との連携

1) IEMS 誌 Vol.13, No3 への特集号掲載、

2) APIEMS2014 理事会報告の HP 掲示

3) APIEMS2015(Ho Chi Minh, Vietnam) CFP の HP 掲示

(2) IFPR(ICPR)および IFPR-APR との連携

1) 第 23 回 ICPR2015 (Manila, Philippines) CFP の HP 掲載

2) IFPR-APR2014 (Jeju, Korea) 報告の HP 掲載。

(3) 国際会議の情報提供

JIMA 会員の関心のあると思われる研究領域の国際会議の開催情報を「国際会議のご案内」のページに平均 40 件程度掲載しました。このページは半月間隔で更新、見直しをしています。また、メルマガには隔号で直近 3 カ月に締め切りを迎える会議を掲載しています。

(4) 横幹連合、日本工学教育協会、経営関連学会協議会との連携支援

上記 3 団体に対し、JIMA の会員継続手続きを行いました。また、これらの団体の情報を JIMA 会員に専用ホームページで最新情報を提供しました。

横幹連合の代議員に後藤正幸先生（早稲田大学）、日本工学教育協会連合講演会の実行委員に高野倉雅人先生(神奈川大)、経営関連学会協議会評議員に開沼泰隆先生（首都大学東京）、降旗徹馬先生（高千穂大学）にそれぞれの役割かつ JIMA の立場でご参画いただいた。なお、横幹連合の次期の理事に皆川健多郎先

生（大阪工大）を推薦し、内定した。

(5) 他学協会との共催、協賛事業の支援

3月25日時点で国内外での開催会議23件の協賛承認を行い、「共催・協賛・関連行事のご案内」のページおよびメルマガに掲載しました。なお、23件中FMES協賛覚書準拠の案件が6件、国際会議が2件でした。

(6) JABEE/FMES

今期は、JABEE委員会の機能を本委員会の業務として活動をおこないました。FMESには、代表者として大久保寛基先生（東京都市大学）、皆川健多郎（大阪工業大学）を、FMES/JABEE委員に渡邊一衛先生（成蹊大学）、吉本一穂先生（早稲田大学）を、FMESシンポジウム委員に吉本一穂先生（早稲田大学）、伊呂原隆先生（上智大学）それぞれ登録しました。

(7) JIS（生産管理用語）の見直しに関する調査

日本規格協会より見出しの件に関する確認があり、これまでの対応ならびに関係者への意見聴取の結果、「見直しの必要あり」との回答を第32期理事会としておこなった。なお、今後の検討事項として、以下の点が残された。

- 1) 具体的な見直し案の検討のための委員会の設置と、委員長、委員の選出案の検討。
- 2) 見直しの検討に際しての予算措置ならびに日本規格協会との連携に関する調整。
- 3) 長期的な課題としてJIMAの国際化戦略の1案として、JISの見直しののち、現在、制定がされていないISOにおける生産管理用語に関する対応の検討。

(8) 経営システム誌への国際会議報告寄稿者の推薦

経営システム誌に下記の国際会議報告を掲載しました（敬称略）。

- 1) 第24巻第1号、APIEMS 2013 Conferenceに参加して、孫晶（名古屋工大）
- 2) 第24巻第3号、CMS2014に参加して、郭偉宏（東京都市大）
- 3) 第24巻第4号、APIEMS2014に参加して、荒川雅裕（名古屋工大）

(9) 国際化タスクフォースからの「JIMAの国際化方策」に関する諮問への回答書「JIMA国際化に関する国際渉外委員会からの提言と報告」を第10回理事会にて、報告・提出した。

11. 経営システム誌編集委員会

理 事：後藤正幸

委 員 長：石垣綾

副委員長：斎藤文

委 員：市来寄治、麻植実、河重隆一郎、金子雅明、小酒井正和、中川慶一郎、蓮池隆、船木謙一、細野泰彦、丸山友希夫、三原康司、森雅俊、横山暁

1. 「経営システム」誌（Communications of JIMA）、Vol.24, No.1～No.4を冊子体として発行した。
（発行年月 巻-号 特集テーマ）

- (1) 平成26年4月15日、24-1、「医療機関における品質マネジメントの実践」 2,100部
- (2) 平成26年7月15日、24-2、「現在のバランスト・

スコアカードの理論と実務」 2,100部

(3) 平成26年10月15日、24-3、「求められる大学改革—経営工学の大学教育—」 2,000部

(4) 平成27年1月15日、24-4、「経営工学的サービス研究—理論と実践—」 2,000部

2. 第32期の編集委員会体制として、2014年度の編集委員会を以下のように開催し、執筆依頼・入稿状況を確認するとともに、編集方針等の各議題について協議した。また、日々の編集業務については電子メールとサイボウズによるコンテンツマネジメントシステムを活用し、1年を通じて密に連絡を交わしながらメールによる持ち回り審議により、経営システム誌の編集業務を進めた。

(1) 第32期 第4回 委員会

開催日：2014年9月30日（火）19:00～21:00

場 所：学会誌刊行センター

議 題：

- 1) Vol.24, No.3の報告
- 2) Vol.24, No.4の進捗状況について
- 3) 2015年4月号以降の特集テーマについて
- 4) 特集以外の掲載記事について
- 5) 経営システム賞について
- 6) その他

出席者：後藤(理事)、石垣(委員長)、斎藤(副委員長)、市来寄、金子、河重、蓮池、藤森(事務局)（8名）

12. 支部委員会

理 事：有菌育生

委 員 長：竹本康彦

副委員長：皆川健多郎

委 員：各支部 支部事務局長

1. 委員会の開催

第1回

開催日：平成26年11月9日(日)11:50～13:05

場 所：広島大学

参加者：12名

議題ならびに報告事項：

- (1) 経費執行に関する考え方の確認
- (2) 経費執行上の事務的な留意点
- (3) 広報の変更
会長懇談

2. 支部委員会執行部 Mail 打ち合せ

Mail/Telによる打ち合わせ 多回数

議題：

- (1) 経理細則改訂に関する検討
- (2) 次年度予算について

3. 財務理事および事務局との打ち合せ

Mail/Telによる打ち合わせ 多回数

議題：

- (1) 経理細則改訂に関する検討

4. メールマガジン「支部だより」の掲載

メールマガジンの各号に「支部だより」として活動の要旨を掲載

4) 許可、認可、承認、証明等に関する事項

該当事項なし。

5) 契約に関する事項

平成 27 年 3 月 一般財団法人学会誌刊行センターと「日本経営工学会論文誌」および「経営システム」編集発行業務について平成 26 年度（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）の代行委託契約を締結した。

平成 27 年 3 月 株式会社国際文献社と学会事務局の会員業務、会計業務、理事会運営業務、その他発生する業務について平成 26 年度（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）の代行委託契約を締結した。

6) 寄付金に関する事項

該当事項なし。

7) 主務官庁からの連絡事項

平成 26 年 4 月 1 日 「事業報告等の提出」提出のご案内(A)
平成 26 年 5 月 30 日 国と特に密接な関係がある公益社団法人及び公益財団法人への該当性について

平成 26 年 6 月 1 日 「事業報告等の提出」提出のご案内(B)
平成 26 年 6 月 9 日 2014 年度夏季の節電に関する御協力のお願いについて

平成 26 年 11 月 12 日 国家公務員の再就職等規制に関する制度周知について

平成 26 年 11 月 26 日 行政文書の開示請求に関する意見について

平成 26 年 11 月 27 日 2014 年度冬季の節電に関する御協力のお願い

平成 27 年 1 月 1 日 「事業計画書等の提出」提出のご案内(A)

平成 27 年 2 月 1 日 「事業計画書等の提出」提出のご案内(B)

平成 27 年 2 月 16 日 貴法人の運営組織及び事業活動の状況に関する立入検査の実施について

平成 27 年 2 月 23 日 公益法人会計諸課題の検討状況（最終報告書素案）

8) その他重要事項

該当事項なし。

Ⅲ. 収支決算報告

(1) 財務諸表

貸借対照表

正味財産増減計算書

正味財産増減計算書内訳表

財産目録

財務諸表に対する注記

附属明細書

貸借対照表

平成27年 3月31日現在

公益社団法人 日本経営工学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	8,378,275	10,527,357	△ 2,149,082
未収金	908	37,601	△ 36,693
流動資産合計	8,379,183	10,564,958	△ 2,185,775
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
公益目的事業運営資産	22,000,000	22,000,000	0
60周年記念事業	0	233,347	△ 233,347
産業連携事業推進準備金	1,500,000	1,500,000	0
創立70周年記念事準備金	300,000	300,000	0
特定資産合計	23,800,000	24,033,347	△ 233,347
固定資産合計	23,800,000	24,033,347	△ 233,347
資産合計	32,179,183	34,598,305	△ 2,419,122
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,925,481	2,410,751	△ 485,270
前受金	457,000	433,000	24,000
預り金	49,736	90,065	△ 40,329
流動負債合計	2,432,217	2,933,816	△ 501,599
負債合計	2,432,217	2,933,816	△ 501,599
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	0	233,347	△ 233,347
指定正味財産合計	0	233,347	△ 233,347
(うち特定資産への充当額)	(0)	(233,347)	(△233,347)
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	29,746,966	31,431,142	△ 1,684,176
(うち特定資産への充当額)	(23,800,000)	(23,800,000)	(0)
正味財産合計	29,746,966	31,664,489	△ 1,917,523
負債及び正味財産合計	32,179,183	34,598,305	△ 2,419,122

正味財産増減計算書

平成26年 4月 1日から平成27年 3月31日まで

公益社団法人 日本経営工学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	5,499	5,499	0
正会員受取入会金	74,000	74,000	0
学生会員受取入会金	29,000	30,000	△ 1,000
正会員受取会費	11,294,000	11,603,000	△ 309,000
学生会員受取会費	257,000	268,000	△ 11,000
賛助会員受取会費	1,000,000	1,000,000	0
事業収益	9,897,808	11,033,717	△ 1,135,909
春季大会事業収益	2,170,000	2,129,000	41,000
秋季大会事業収益	2,241,000	1,945,000	296,000
ジョイントカンファレンス収益	1,010,000	0	1,010,000
論文誌掲載収益	2,732,640	5,441,670	△ 2,709,030
別刷代収益	268,423	376,990	△ 108,567
広告料収益	320,000	400,000	△ 80,000
定期購読収益	412,020	442,260	△ 30,240
バックナンバー収益	88,588	143,420	△ 54,832
支部収益	45,029	44,548	481
研究部門収益	610,108	110,829	499,279
受取寄付金	233,347	266,653	△ 33,306
受取寄付金	233,347	266,653	△ 33,306
雑収益	314,681	409,591	△ 94,910
受取利息	1,141	1,138	3
雑収益	313,540	408,453	△ 94,913
経常収益計	23,105,335	24,690,460	△ 1,585,125
(2) 経常費用			
事業費	17,528,751	17,569,965	△ 41,214
臨時雇賃金	469,511	546,000	△ 76,489
会議費	2,657,251	1,375,963	1,281,288
旅費交通費	232,610	163,330	69,280
通信運搬費	881,395	1,122,777	△ 241,382
消耗品費	580,531	445,366	135,165
印刷製本費	8,478,790	9,611,806	△ 1,133,016
諸謝金	1,458,889	1,449,568	9,321
支払手数料	7,992	8,872	△ 880
委託費	2,502,412	2,486,887	15,525
他学協会連携関係維持費	221,370	301,700	△ 80,330
雑費	38,000	57,696	△ 19,696
管理費	7,260,760	6,807,920	452,840
臨時雇賃金	42,000	0	42,000
会議費	90,782	69,260	21,522
旅費交通費	574,456	520,000	54,456
通信運搬費	253,082	607,414	△ 354,332
消耗品費	0	16,590	△ 16,590
印刷製本費	19,616	3,348	16,268
HP関係費	320,760	311,850	8,910
租税公課	54,500	2,000	52,500
支払手数料	388,752	148,535	240,217
委託費	5,481,442	5,096,960	384,482
雑費	35,370	31,963	3,407
経常費用計	24,789,511	24,377,885	411,626
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,684,176	312,575	△ 1,996,751
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,684,176	312,575	△ 1,996,751
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,684,176	312,575	△ 1,996,751
一般正味財産期首残高	31,431,142	31,118,567	312,575
一般正味財産期末残高	29,746,966	31,431,142	△ 1,684,176
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	△ 233,347	△ 266,653	33,306
一般正味財産への振替額	△ 233,347	△ 266,653	33,306
当期指定正味財産増減額	△ 233,347	△ 266,653	33,306
指定正味財産期首残高	233,347	500,000	△ 266,653
指定正味財産期末残高	0	233,347	△ 233,347
III 正味財産期末残高	29,746,966	31,664,489	△ 1,917,523

予算対比正味財産増減計算書

平成26年 4月 1日から平成27年 3月31日まで

公益社団法人 日本経営工学会

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	5,000	5,499	△ 499
正会員受取入会金	88,000	74,000	14,000
学生会員受取入会金	54,000	29,000	25,000
正会員受取会費	12,488,000	11,294,000	1,194,000
学生会員受取会費	976,000	257,000	719,000
賛助会員受取会費	500,000	1,000,000	△ 500,000
事業収益	9,399,140	9,897,808	△ 498,668
春季大会事業収益	2,000,000	2,170,000	△ 170,000
秋季大会事業収益	2,200,000	2,241,000	△ 41,000
ジョイントカンファレンス収益	650,000	1,010,000	△ 360,000
論文誌掲載収益	3,500,000	2,732,640	767,360
別刷代収益	220,000	268,423	△ 48,423
広告料収益	362,000	320,000	42,000
定期購読収益	427,140	412,020	15,120
バックナンバー収益	40,000	88,588	△ 48,588
支部収益	0	45,029	△ 45,029
研究部門収益	0	610,108	△ 610,108
受取寄付金	0	233,347	△ 233,347
受取寄付金	0	233,347	△ 233,347
雑収益	302,000	314,681	△ 12,681
受取利息	2,000	1,141	859
雑収益	300,000	313,540	△ 13,540
経常収益計	23,812,140	23,105,335	706,805
(2) 経常費用			
事業費	18,449,102	17,528,751	920,351
臨時雇賃金	644,411	469,511	174,900
会議費	2,227,720	2,657,251	△ 429,531
旅費交通費	327,622	232,610	95,012
通信運搬費	753,500	881,395	△ 127,895
消耗品費	610,900	580,531	30,369
印刷製本費	8,393,500	8,478,790	△ 85,290
諸謝金	1,726,251	1,458,889	267,362
支払手数料	39,025	7,992	31,033
委託費	3,222,000	2,502,412	719,588
他学協会連携関係維持費	301,700	221,370	80,330
雑費	202,473	38,000	164,473
管理費	7,194,000	7,260,760	△ 66,760
臨時雇賃金	160,000	42,000	118,000
会議費	24,000	90,782	△ 66,782
旅費交通費	360,000	574,456	△ 214,456
通信運搬費	150,000	253,082	△ 103,082
消耗品費	15,000	0	15,000
印刷製本費	70,000	19,616	50,384
HP関係費	430,000	320,760	109,240
租税公課	5,000	54,500	△ 49,500
支払手数料	400,000	388,752	11,248
委託費	5,540,000	5,481,442	58,558
雑費	40,000	35,370	4,630
経常費用計	25,643,102	24,789,511	853,591
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,830,962	△ 1,684,176	△ 146,786
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,830,962	△ 1,684,176	△ 146,786
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,830,962	△ 1,684,176	△ 146,786
一般正味財産期首残高	31,431,142	31,431,142	0
一般正味財産期末残高	29,600,180	29,746,966	△ 146,786
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	0	△ 233,347	233,347
一般正味財産への振替額	0	△ 233,347	233,347
当期指定正味財産増減額	0	△ 233,347	233,347
指定正味財産期首残高	233,347	233,347	0
指定正味財産期末残高	233,347	0	233,347
III 正味財産期末残高	29,833,527	29,746,966	86,561

財産目録

平成27年 3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金預金	普通預金		6,481,544
		三菱UFJ信託銀行上野支店	運転資金として	1,208,164
		三井住友信託銀行芝営業部	運転資金として	143,211
		みずほ銀行早稲田支店	運転資金として	4,972,048
		みずほ銀行高田馬場支店/北海道支部	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/東北支部	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/北関東支部	運転資金として	1,048
		みずほ銀行高田馬場支店/東関東支部	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/西関東支部	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/中部支部	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/北陸支部	運転資金として	823
		みずほ銀行高田馬場支店/関西支部	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/中国四国支部	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/九州支部	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/生産・物流部門	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/事業・市場部門	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/サービス部門	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/人間・組織部門	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/経営情報部門	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/経営数理部門	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/日中自動車産業の比較分析	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/品質機能展開	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/日本型MOT	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/集合知メカニズムとその応用	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/ベジアンネットワーク	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/EAWIE	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/マネジメント科学ビジョン研究会	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/IT活用による次世代学習スタイル研究会	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/クロスド・ループ・イブライ・チェーン研究会	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/大会委員会	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/大会組織委員会	運転資金として	0
		みずほ銀行高田馬場支店/大会参加費	運転資金として	156,250
		未収金	郵便振替	
	ゆうちょ銀行/会費振込専用口座		運転資金として	242,125
	ゆうちょ銀行/大会参加費専用口座		運転資金として	1,654,606
			事業市場部門	未収金
流動資産合計				8,379,183
(固定資産)	特定資産	公益目的事業運営資産		
		定期預金/三菱UFJ信託銀行上野支店	公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している	22,000,000
		定期預金/三井住友信託銀行芝営業部	公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している	10,000,000
		定期預金/みずほ銀行早稲田支店	公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している	10,000,000
		産業連携事業推進準備金		2,000,000
		みずほ銀行早稲田支店		1,500,000
		創立70周年記念事業準備金	公益目的事業の産業連携事業推進に備えるため	1,500,000
		みずほ銀行早稲田支店		300,000
		みずほ銀行早稲田支店	公益目的事業の70周年記念事業に備えるため	300,000
		固定資産合計		
資産合計				32,179,183
(流動負債)	未払金	株国際文献社	公益目的事業及び管理目的である会員・会計・選挙等の委託費用である	1,925,481
		学会誌刊行センター	公益目的事業の委託費用である	1,567,106
		選挙費用	選挙時のアルバイト代、後納料金である	71,280
		中部支部	個人立替未精算分	57,195
		人間組織研究部門	個人立替未精算分	154,071
		関西支部	個人立替未精算分	75,579
		春季大会 参加費	個人立替未精算分	250
		前受金	公益目的事業である翌事業年度の春季大会参加費である	457,000
		前受会費	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する翌事業年度の会費である。	190,000
		源泉税	講師謝金等の源泉税。	267,000
		預り金		49,736
		源泉税		49,736
		流動負債合計		
負債合計				2,432,217
正味財産				29,746,966

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1)消費税等の会計処理は税込方式を採用している。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
公益目的事業運営資産	22,000,000	0	0	22,000,000
産業連携事業推進準備金	1,500,000	0	0	1,500,000
60周年記念事業運営資金	233,347	0	233,347	0
創立70周年記念準備金	300,000	0	0	300,000
合 計	24,033,347	0	233,347	23,800,000

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は次の通りである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対する額)
特定資産				
公益目的事業運営資産	22,000,000	(0)	(22,000,000)	(0)
産業連携事業推進準備金	1,500,000	(0)	(1,500,000)	(0)
創立70周年記念準備金	300,000	(0)	(300,000)	(0)
合 計	23,800,000	(0)	(23,800,000)	(0)

4. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次の通りである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
該当事業終了による振替額	233,347
合 計	233,347

附属明細書

1. 特定資産の明細

特定資産について、財務諸表の注記 2. 特定資産の増減額及びその残高に記載をしているため、記載を省略する。

正味財産増減計算書内訳表

平成26年 4月 1日から平成27年 3月31日まで

公益社団法人 日本経営工学会

(単位:円)

科 目	公益目的事業		法人会計	内部取引消去	合 計
	経営工学に関する 学術振興事業	小計			
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
特定資産運用益	5,499	5,499	0	0	5,499
正会員受取入会金	37,000	37,000	37,000	0	74,000
学生会員受取入会金	14,500	14,500	14,500	0	29,000
正会員受取会費	5,647,000	5,647,000	5,647,000	0	11,294,000
学生会員受取会費	128,500	128,500	128,500	0	257,000
賛助会員受取会費	500,000	500,000	500,000	0	1,000,000
事業収益	9,897,808	9,897,808	0	0	9,897,808
春季大会事業収益	2,170,000	2,170,000	0	0	2,170,000
秋季大会事業収益	2,241,000	2,241,000	0	0	2,241,000
ジョイントカンファレンス収益	1,010,000	1,010,000	0	0	1,010,000
論文誌掲載収益	2,732,640	2,732,640	0	0	2,732,640
別刷代収益	268,423	268,423	0	0	268,423
広告料収益	320,000	320,000	0	0	320,000
定期購読収益	412,020	412,020	0	0	412,020
バックナンバー収益	88,588	88,588	0	0	88,588
支部収益	45,029	45,029	0	0	45,029
研究部門収益	610,108	610,108	0	0	610,108
受取寄付金	233,347	233,347	0	0	233,347
受取寄付金	233,347	233,347	0	0	233,347
雑収益	0	0	314,681	0	314,681
受取利息	0	0	1,141	0	1,141
雑収益	0	0	313,540	0	313,540
経常収益計	16,463,654	16,463,654	6,641,681	0	23,105,335
(2) 経常費用					
事業費	17,528,751	17,528,751	0	0	17,528,751
臨時雇賃金	469,511	469,511	0	0	469,511
会議費	2,657,251	2,657,251	0	0	2,657,251
旅費交通費	232,610	232,610	0	0	232,610
通信運搬費	881,395	881,395	0	0	881,395
消耗品費	580,531	580,531	0	0	580,531
印刷製本費	8,478,790	8,478,790	0	0	8,478,790
諸謝金	1,458,889	1,458,889	0	0	1,458,889
支払手数料	7,992	7,992	0	0	7,992
委託費	2,502,412	2,502,412	0	0	2,502,412
他学協会連携関係維持費	221,370	221,370	0	0	221,370
雑費	38,000	38,000	0	0	38,000
管理費	0	0	7,260,760	0	7,260,760
臨時雇賃金	0	0	42,000	0	42,000
会議費	0	0	90,782	0	90,782
旅費交通費	0	0	574,456	0	574,456
通信運搬費	0	0	253,082	0	253,082
印刷製本費	0	0	19,616	0	19,616
HP関係費	0	0	320,760	0	320,760
租税公課	0	0	54,500	0	54,500
支払手数料	0	0	388,752	0	388,752
委託費	0	0	5,481,442	0	5,481,442
雑費	0	0	35,370	0	35,370
経常費用計	17,528,751	17,528,751	7,260,760	0	24,789,511
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,065,097	△ 1,065,097	△ 619,079	0	△ 1,684,176
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,065,097	△ 1,065,097	△ 619,079	0	△ 1,684,176
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	1,065,097	1,065,097	△ 1,065,097	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	△ 1,684,176	0	△ 1,684,176
一般正味財産期首残高	23,800,000	23,800,000	7,631,142	0	31,431,142
一般正味財産期末残高	23,800,000	23,800,000	5,946,966	0	29,746,966
II 指定正味財産増減の部					
一般正味財産への振替額	△ 233,347	△ 233,347	0	0	△ 233,347
一般正味財産への振替額	△ 233,347	△ 233,347	0	0	△ 233,347
当期指定正味財産増減額	△ 233,347	△ 233,347	0	0	△ 233,347
指定正味財産期首残高	233,347	233,347	0	0	233,347
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	23,800,000	23,800,000	5,946,966	0	29,746,966

独立監査人の監査報告書

平成 27 年 5 月 13 日

公益社団法人日本経営工学会
代表理事 河野 宏和 殿

田中公認会計士事務所

公認会計士

田中 友子 

<財務諸表監査>

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づき、公益社団法人日本経営工学会の平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの事業年度の貸借対照表及び損益計算書(公益認定等ガイドラインⅠ-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。)並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表(以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。)について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

＜財産目録に対する意見＞

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づき、公益社団法人日本経営工学会の平成 27 年 3 月 31 日現在の事業年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本経営工学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

監査報告書

平成 27 年 4 月 23 日

公益社団法人 日本経営工学会
会長 河野 宏和 殿

公益社団法人 日本経営工学会
監事 開沼 泰隆
監事 水山 元

私たち監事は、平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財産目録、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

※個人情報保護のため、総会資料掲載版の印影は省略させていただきます。

6. 3 平成 27 年度事業計画、収支予算報告

6. 3. 1 平成 27 年度事業計画

1. 事業計画

(1) 研究発表会、学術講演会の開催（定款第 4 条第 1 号）：大会委員会

平成 27 年度は研究発表会を 2 回開催する。

春季大会

日 時 5 月 16 日（土）～17 日（日）
場 所 首都大学東京 南大沢キャンパス
テーマ 「グローバル生産と生産マネジメント」
大会組織委員長 山本 久志

秋季大会

日 時 11 月 28 日（土）～29 日（日）
場 所 金沢工科大学園
大会組織委員長 武市 祥司

(2) 会誌、その他の刊行（定款第 4 条第 2 号）

日本経営工学会論文誌「Journal of Japan Industrial Management Association」：日本経営工学会論文誌編集委員会

Vol.66 No.1～No.4, No.2E, No.4E を発行する。

発行年月日	巻	号	発行部数
平成 27 年 4 月 15 日	66	1	1,700
平成 27 年 7 月 15 日	66	2, 2E	1,700
平成 27 年 10 月 15 日	66	3	1,700
平成 28 年 1 月 15 日	66	4, 4E	1,700

経営システム「Communications of JIMA」：経営システム誌編集委員会

Vol.25 No.1～No.4 を発行する。

発行年月日	巻	号	発行部数
平成 27 年 4 月 15 日	25	1	2,000
平成 27 年 7 月 15 日	25	2	2,000
平成 27 年 10 月 15 日	25	3	2,000
平成 28 年 1 月 15 日	25	4	2,000

(3) 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第 4 条第 3 号）：表彰委員会

学会賞（学術）、学会賞（功労）、論文賞、論文奨励賞、特別賞（経営システム賞、経営工学実践賞、優秀学生賞、Best Presentation Award）を選考し、理事会に推薦する。

(4) 調査、研究、見学及び視察（定款第 4 条第 4 号）

平成 26 年度の事業を踏襲し、引き続き支部、研究部門で活動を行う。

支部活動計画：支部委員会

1. 東北・北海道支部

－北海道、青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島

(1) 支部総会

1) 日時

平成 28 年 3 月 1 日

2) 次第

平成 27 年度事業報告

平成 28 年度事業計画

その他

(2) 卒業・修士論文発表会

(3) 運営委員会

メールにてその都度開催

2. 北関東支部

－埼玉、栃木、群馬

(1) 支部総会

平成 27 年 4 月

(2) 卒業・修士論文発表会

平成 28 年 3 月

(3) 運営委員会

平成 28 年 3 月

3. 東関東支部

－千葉、茨城

(1) 支部総会

日時：平成 27 年 5 月

1) 総会

平成 26 年度支部事業報告

平成 26 年度支部決算報告

平成 27 年度支部事業計画

平成 27 年度支部予算案

その他

(2) 経営工学定例セミナー

年間 2 回開催予定

(3) 学生論文中間検討会

日時：平成 27 年 12 月

会場：未定

予定発表件数：約 15 件 予定参加者：約 50 名

(4) その他

(5) 運営委員会

年間 2 回

4. 西関東支部

－神奈川、東京、山梨

(1) 人材育成研究会（講演会）、4 回（春 2 回、秋 2 回）

(2) 学生論文発表会、1 回

(3) ゼミ交流発表会、1 回

(4) 事業所見学会、1 回

(5) 支部研究会、隔月 1 回

研究テーマ：6 次産業の経営工学研究

(6) 国際学会発表研修会、1 回

5. 中部支部

－愛知、岐阜、三重、静岡

(1) 支部総会（年 1 回）

(2) 運営委員会（適宜）

(3) 定例セミナー（特別講演会）

(4) 中部支部研究発表会

平成 28 年 2 月

(5) 見学会（年 2 回以上）

(6) 課題別検討会（事例検討会）

(7) ニュースレター、支部ホームページ

(8) 協賛事業

6. 北陸支部

ー石川、富山、福井、新潟、長野

(1) 経営工学定例セミナー

日時：平成 27 年 12 月

会場：IT ビジネスプラザ武蔵

(2) 卒業・修士論文発表会

日時：平成 28 年 3 月

会場：石川県女性センター

(3) 事例研究会

日時：平成 27 年 9 月

会場：石川県女性センター

(4) 地域貢献表彰

日時：平成 28 年 3 月

会場：石川県女性センター

(5) 運営委員会

1) 第 1 回

日時：平成 27 年 5 月

2) 第 2 回

日時：平成 27 年 8 月

3) 第 3 回

日時：平成 27 年 10 月

4) 第 4 回

日時：平成 27 年 11 月

5) 第 5 回

日時：平成 28 年 3 月

7. 関西支部

ー大阪、京都、兵庫、和歌山、奈良、滋賀

(1) 特別講演会

日時：平成 27 年 6 月

(2) 経営工学定例セミナー

1) 第 1 回

日時：平成 27 年 10 月

2) 第 2 回

日時：平成 28 年 2 月

(3) 卒業・修士論文発表会

日時：平成 28 年 3 月

(4) 工場見学会（年 1 回）

会場：未定

(5) 支部活性化事業

8. 中国四国支部

ー鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、高知、徳島

(1) 支部総会

日時：平成 27 年 6 月

(2) 支部運営委員会

年間 3 回

1) 第 1 回運営委員会 日時：平成 27 年 6 月

2) 第 2 回運営委員会 日時：平成 27 年 11 月

3) 第 3 回運営委員会 日時：平成 28 年 3 月

(3) 講演会

1) 第 1 回講演会 日時：平成 27 年 6 月

2) 第 2 回講演会 日時：平成 27 年 11 月

3) 第 3 回講演会 日時：平成 28 年 3 月

(4) 学生論文発表会

日時：平成 28 年 3 月

(5) 工場見学会

日時：平成 27 年 8 月

(6) 表彰

優秀研究発表賞 若干名

研究発表賞 若干名

支部長賞 若干名

9. 九州支部

ー福岡、佐賀、熊本、大分、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄

(1) 支部総会

日時：平成 27 年 4 月

会場：福岡工業大学 B 棟システムマネジメント学科

1) 総会

平成 26 年度支部事業報告

平成 26 年度支部決算報告

平成 27 年度支部事業計画

平成 27 年度支部予算案

その他

2) 懇親会

(2) 研究会

1) 第 1 回

日時：平成 27 年 4 月

会場：福岡工業大学 B 棟システムマネジメント学科

2) 第 2 回

日時：平成 27 年 7 月

(3) 経営工学定例セミナー

1) 第 1 回

日時：平成 27 年 9 月中旬

2) 第 2 回（生産管理学会九州支部主催、経営工学会協賛）

日時：平成 27 年 12 月上旬

(4) 卒業・修士論文発表会

日時：平成 28 年 2 月下旬

会場：福岡工業大学

1) 発表会

2) 懇親会

(5) 見学会

日時：平成 27 年 8 月

(6) 学生部講演会

日時：平成 27 年 12 月初旬

講師：福岡工業大学 田嶋拓也氏

(7) 幹事会・運営委員会

年間 4 回

平成 27 年 7 月、9 月、12 月、及び平成 28 年 4 月

（企画・運営委員会、論文集委員会、表彰委員会兼任）

企画、論文集発行、表彰等の計画・実施

(8) 研究委員会

年間 2 回以上、開催日は委員長に一任。

研究会、見学会、セミナーの計画・実施

(9) 学生助成委員会

年間2回以上、開催日は委員長に一任。
論文発表会の会場・スケジュール、講演会の会場・
講師・日程の調整・決定

研究部門活動計画：研究委員会

1. 生産・物流部門

- (1) 生産物流部門研究活動の活性化
 - 1) 生産・物流部門運営システムの構築と実施
 - 2) 学会員への周知
- (2) 産学連携に基づく社会への貢献
 - 1) 複数研究会設置、および関連活動による産学連携の推進
 - 2) 産学連携活動の場の提供
- (3) 研究プロジェクト
 - 1) 品質機能展開を用いた生産・物流活動の業務設計に関する研究（継続）
 - 2) プロジェクト&プログラム・アナリシス研究（新規）

2. 人間・組織部門

- (1) 研究プロジェクト
 - 1) サービス業におけるIE改善アプローチ研究会
 - 2) 入浴介助作業における介助者および非介助者の負担軽減研究
- (2) プロジェクト連動シンポジウム（各1回予定）
研究プロジェクトの進捗および成果をテーマとしたシンポジウム開催
- (3) 春季大会、秋季大会における部門セッションの開催
非会員および企業からの発表者を招来予定

3. 事業・市場部門

- (1) 事業・市場開発研究部門研究活動の活性化
 - 1) 研究部門の活動計画立案と、JIMA 会員相互との意見交換
 - 2) 上記項目、下記の項目に関する成果報告として、「発表大会における特別セッション」の企画・開催
 - 3) 下記4の事業・市場開発研究部門全体テーマとして掲げた「グローバル製品戦略」について、学会論文誌に特集号を企画
- (2) 産学連携に基づく社会への貢献
研究部門、および関連活動による産学連携の推進
- (3) 研究会活動（継続）
以下の2つの研究会を発足予定
 - 1) 日本企業の再興とMOT研究会
 - 2) 集合知メカニズム研究会
- (4) 昨年度に、事業・市場開発研究部門全体の新規テーマとして設定した「グローバル製品戦略（継続）」に関連した文献・事例・資料の調査研究と、その育成プログラムの体系リストの研究・開発・実施の成果を、上記の「学会大会における特別セッション」における成果発表。

4. 経営数理部門

- (1) 経営数理研究部門研究活動の活性化
 - 1) 研究部門制度の構築と実施
 - 2) 本大会での特別セッション開催
- (2) 産学連携の可能性検討
 - 1) 研究部門、および関連活動による産学連携
 - 2) 産学連携のきっかけの場の提供
- (3) 研究プロジェクト活動
SCM と予測研究プロジェクトを発足予定
- (4) その他

5. サービス部門

- (1) 研究プロジェクト
IE 技法の対人サービスへの応用の諸検討
- (2) 部門基礎
 - 1) 講演会年1回（2月）
（仮）新サービスビジネス開発のためのサービス技術表現方法
 - 2) 当該部門の経営課題の調査（年3回程度）
調査内容：日本におけるサービスサイジングの事例研究
メンバー：部門メンバー
- (3) 秋大会でのオーガナイズド・セッション

6. 経営情報部門

- (1) 経営情報部門研究活動の活性化
 - 1) データ解析コンペティション JIMA 予選会の実施
 - 2) 研究会の開催
- (2) ICT を用いた教育・学習とその地域社会への貢献研究プロジェクト
後藤裕介主査、石田崇副査のもと、IT 活用による次世代学習スタイル研究会活動を実施する

（5）内外の関連機関との提携及び交流（定款第4条第5号）

- 1) 経営工学に関連する国際会議のJIMA ホームページ、メルマガによる会員向け案内の継続
- 2) 日本経営工学会に対する協賛・共催依頼への対応と国内外での協賛・共催学会のホームページでの案内・周知
- 3) 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）、日本工学会、経営関連学会協議会との連携とJIMA ホームページへの情報掲載
- 4) APIEMS への協力・支援、年次大会のJIMA ホームページへの情報掲載
- 5) IFPR(ICPR)およびIFPR-APR への協力・支援、JIMA ホームページへの情報掲載促進
- 6) 経営システム誌への国際会議報告掲載
- 7) JABEE およびFMES との連携活動
- 8) その他、JIMA の国際化方針に基づく活動支援、JIS 見直しへの対応

（6）その他前条の目的を達成するために必要な事業（定款第4条第6号）

特になし

2. 会議に関する事項

(1) 定時総会

平成 27 年 5 月（年 1 回）開催予定。

(2) 理事会

平成 27 年 7 月、9 月、11 月、平成 28 年 1 月、3 月、5 月（年 6 回）開催予定。

(3) 各種委員会

1. 庶務委員会

- (1) 庶務委員会を年 3、4 回程度開催し規程類の検討、総会の資料の確認、ホームページの作成及び改定、メールマガジン発行に関して検討を行う。
- (2) 事務の諸手続きを国際文献社に依頼する。

2. 研究委員会

- (1) 研究部門制導入による研究活動の活性化
 - 1) 研究部門制度の構築と実施体制の確立
 - 2) 学会員への周知
 - 3) 各研究部門のサポート
- (2) 産学連携に基づく社会への貢献
 - 1) 研究部門、および関連活動による産学連携の推進
 - 2) 産学連携活動の場の提供

3. 日本経営工学会論文誌編集委員会

- (1) 年 12 回程度の委員会を開催し、日本経営工学会論文誌の発行を推進する。

4. 企画・行事委員会

- (1) 経営工学関係 3 団体（日本経営工学会、技術士会、日本 IE 協会）で連携しながら、春・秋季学会での連携事業等経営工学の発展のための事業を提案する。
- (2) 高校生向け経営工学教材製作
高校生への出張講義による経営工学の広報と、そのための教材製作
- (3) その他

5. 人材育成委員会

- (1) 技術士ガイダンス：経営工学関係 3 団体（日本経営工学会、技術士会、日本 IE 協会）で連携しながら、経営工学部門の技術士を目指して経営工学を学んでいる学生、経営工学を学んで卒業した後、企業に就職し、経営工学に関する実務を担当しながら技術士を目指している企業人に対して、国家資格としての技術士の制度や受験についてガイダンスすることで、将来的に日本経営工学会への入会につなげていく。
- (2) インターンシップ：経営工学を学ぶ学生に対して、経営工学の実務を体験してもらうことで経営工学に関する興味を深め、就職後の経営工学の実務、技術士への挑戦、学会への入会のきっかけをつける。併せて、経営工学を研究教育している若手研究者に対して、最近では実務に触れる機会の少なくなっていることから、同じインターンシップに参加して、

経営工学の実務を体験することで、その後の研究教育の進展を図るきっかけとする。

6. 会員委員会

- (1) 会員増強策の検討
- (2) 賛助会員向けサービスの検討

7. 財務委員会

- (1) 毎月の伝票検査、支払い及び四半期毎の予算執行の管理
- (2) 決算案の作成と監査手続き
- (3) 予算案のとりまとめ

8. 大会委員会

- (1) 春季、秋季大会での委員会開催
- (2) 春季・秋季大会におけるプログラム検討の委員会
- (3) 事務局との大会日程等の調整のための委員会
- (4) その他大会に関する会合（メール等で開催）

9. 表彰委員会

- (1) 年間 3～4 回の委員会を開催し、学会賞、論文賞、論文奨励賞、特別賞の各候補の推薦方法を検討し、各賞受賞候補者（案）を決定し、理事会に諮る。

10. 国際・渉外委員会

- (1) 経営工学に関連する国際会議の JIMA ホームページ、メルマガによる会員向け案内の継続
- (2) 日本経営工学会に対する協賛・共催依頼への対応と国内外での協賛・共催学会のホームページでの案内・周知
- (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）、日本工学会、経営関連協議会との連携と JIMA ホームページへの情報掲載
- (4) APIEMS への協力・支援、年次大会の JIMA ホームページへの情報掲載
- (5) IFPR(ICPR)および IFPR-APR への協力・支援、JIMA ホームページへの情報掲載促進
- (6) 経営システム誌への国際会議報告掲載
- (7) JABEE および FMES との連携活動
- (8) その他、JIMA の国際化方針に基づく活動支援、JIS 見直しへの対応

11. 経営システム誌編集委員会

- (1) 年間 4 冊の発行を推進する。
- (2) CiNii 等学術データベースでの論文公開事業を実施。

12. 支部委員会

- (1) 委員会の開催(兼 支部長との懇談会)
- (2) 各支部の事業計画と支部に割り当てる資金・企画行事の検討
- (3) 支部長との懇談会による支部活動の活性化支援
- (4) 公益法人化に伴う支部の運営方法に関する検討

収支予算書

平成27年 4月1日から平成28年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	5,000	5,000	0
正会員受取入会金	90,000	88,000	2,000
学生会員受取入会金	28,000	54,000	△ 26,000
正会員受取会費	11,982,000	12,488,000	△ 506,000
学生会員受取会費	308,000	476,000	△ 168,000
賛助会員受取会費	950,000	1,000,000	△ 50,000
事業収益	8,925,020	9,399,140	△ 474,120
春季大会事業収益	2,043,000	2,000,000	43,000
秋季大会事業収益	2,140,000	2,200,000	△ 60,000
論文誌掲載収益	3,700,000	3,500,000	200,000
別刷代収益	250,000	220,000	30,000
広告料収益	320,000	362,000	△ 42,000
定期購読収益	412,020	427,140	△ 15,120
バックナンバー収益	60,000	40,000	20,000
ジョイントカンファレンス収益	0	650,000	△ 650,000
支部収益	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
雑収益	302,000	302,000	0
受取利息	2,000	2,000	0
雑収益	300,000	300,000	0
経常収益計	22,590,020	23,812,140	△ 1,222,120
(2) 経常費用			
事業費	17,787,269	18,449,102	△ 661,833
臨時雇賃金	537,411	644,411	△ 107,000
会議費	1,906,440	2,227,720	△ 321,280
旅費交通費	769,384	327,622	441,762
通信運搬費	464,700	753,500	△ 288,800
消耗品費	878,069	610,900	267,169
印刷製本費	8,222,500	8,393,500	△ 171,000
諸謝金	1,411,425	1,726,251	△ 314,826
支払手数料	19,324	39,025	△ 19,701
委託費	2,949,400	3,222,000	△ 272,600
他学協会連携関係維持費	301,700	301,700	0
雑費	326,916	202,473	124,443
管理費	6,204,000	7,194,000	△ 990,000
臨時雇賃金	0	160,000	△ 160,000
会議費	24,000	24,000	0
旅費交通費	360,000	360,000	0
通信運搬費	150,000	150,000	0
消耗品費	15,000	15,000	0
印刷製本費	70,000	70,000	0
租税公課	5,000	5,000	0
支払手数料	400,000	400,000	0
HP関係費	320,000	430,000	△ 110,000
諸会費	0	0	0
委託費	4,860,000	5,540,000	△ 680,000
雑費	0	40,000	△ 40,000
経常費用計	23,991,269	25,643,102	△ 1,651,833
当期経常増減額	△ 1,401,249	△ 1,830,962	429,713
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,401,249	△ 1,830,962	429,713
一般正味財産期首残高	29,833,527	31,664,489	△ 1,830,962
一般正味財産期末残高	28,432,278	29,833,527	△ 1,401,249
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	28,432,278	29,833,527	△ 1,401,249

収支予算書内訳表

平成27年 4月1日から平成28年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業		法人会計	合 計
	経営工学に関する 学術振興事業	小計		
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	5,000	5,000	0	5,000
正会員受取入会金	45,000	45,000	45,000	90,000
学生会員受取入会金	14,000	14,000	14,000	28,000
正会員受取会費	5,991,000	5,991,000	5,991,000	11,982,000
学生会員受取会費	154,000	154,000	154,000	308,000
賛助会員受取会費	475,000	475,000	475,000	950,000
事業収益	8,925,020	8,925,020	0	8,925,020
春季大会事業収益	2,043,000	2,043,000	0	2,043,000
秋季大会事業収益	2,140,000	2,140,000	0	2,140,000
論文誌掲載収益	3,700,000	3,700,000	0	3,700,000
別刷代収益	250,000	250,000	0	250,000
広告料収益	320,000	320,000	0	320,000
定期購読収益	412,020	412,020	0	412,020
バックナンバー収益	60,000	60,000	0	60,000
支部収益	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0
雑収益	0	0	302,000	302,000
受取利息	0	0	2,000	2,000
雑収益	0	0	300,000	300,000
経常収益計	15,609,020	15,609,020	6,981,000	22,590,020
(2) 経常費用				
事業費	17,787,269	17,787,269	0	17,787,269
臨時雇賃金	537,411	537,411	0	537,411
会議費	1,906,440	1,906,440	0	1,906,440
旅費交通費	769,384	769,384	0	769,384
通信運搬費	464,700	464,700	0	464,700
消耗品費	878,069	878,069	0	878,069
印刷製本費	8,222,500	8,222,500	0	8,222,500
諸謝金	1,411,425	1,411,425	0	1,411,425
支払手数料	19,324	19,324	0	19,324
委託費	2,949,400	2,949,400	0	2,949,400
他学協会連携関係維持費	301,700	301,700	0	301,700
雑費	326,916	326,916	0	326,916
管理費	0	0	6,204,000	6,204,000
臨時雇賃金	0	0	0	0
会議費	0	0	24,000	24,000
旅費交通費	0	0	360,000	360,000
通信運搬費	0	0	150,000	150,000
消耗品費	0	0	15,000	15,000
印刷製本費	0	0	70,000	70,000
租税公課	0	0	5,000	5,000
支払手数料	0	0	400,000	400,000
HP関係費	0	0	320,000	320,000
諸会費	0	0	0	0
委託費	0	0	4,860,000	4,860,000
雑費	0	0	0	0
経常費用計	17,787,269	17,787,269	6,204,000	23,991,269
当期経常増減額	△ 2,178,249	△ 2,178,249	777,000	△ 1,401,249
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,178,249	△ 2,178,249	777,000	△ 1,401,249
一般正味財産期首残高				29,833,527
一般正味財産期末残高				28,432,278
II 指定正味財産増減の部				
一般正味財産への振替額				0
当期指定正味財産増減額				0
指定正味財産期首残高				0
指定正味財産期末残高				0
III 正味財産期末残高				28,432,278

7. 審議事項

第一号議案 平成 26 年度事業報告及び収支決算報告の件

報告事項 6. 1 平成 26 年度事業報告、収支決算報告及び平成 26 年度学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告（pp.1～pp.35）をご参照ください。

第二号議案 選挙結果報告の件

役員選挙結果

役職名	氏 名	所 属	得票数
会 長	河野宏和	慶應義塾大学	284

役職名	氏 名	所 属	得票数
理 事 (当選)	伊呂原隆	上智大学	272
	稲田周平	慶應義塾大学	265
	皆川健多郎	大阪工業大学	263
	斎藤 文	産業能率大学	262
	大久保寛基	東京都市大学	259
	篠田心治	成蹊大学	255
	松林伸生	慶應義塾大学	254
	二ノ宮滋	元日本 I E 協会	252

役職名	氏 名	所 属	得票数
監 事	高橋勝彦	広島大学	276
	後藤正幸	早稲田大学	269

代議員選挙結果

当選者（40 名）

No.	候補者名（所属）	所属支部	産学
1	本多 薫（山形大学）	東北・北海道	学
2	芥川一則（福島工業高等専門学校）		
3	正道寺勉（日本工業大学）	北関東	学
4	丸山友希夫（日本工業大学）		
5	飯沼守彦（日本大学）	東関東	学
6	川村大伸（筑波大学）		
7	白井 裕（千葉工業大学）		
8	高野倉雅人（神奈川大学）	西関東	学
9	中島健一（神奈川大学）		
10	山田哲男（電気通信大学）		
11	石島 隆（法政大学）		
12	岡部建次（駿河台大学）		
13	孔 憲達（首都大学東京）		
14	斎藤正武（中央大学）		
15	竹田 賢（青山学院大学）		
16	山下 真（東京工業大学）		
17	山本久志（首都大学東京）		
18	大江啓太郎（株）MD ビジネスパートナー		産
19	中山麻紀（日本光電工業株）		
20	大宮 望（コニカミノルタ情報システム株）		
21	佐藤正一（東洋エンジニアリング株）		
22	鈴木泰之（株）大和証券ビジネスセンター		
23	高林直樹（庄原市役所）		
24	林 千宏（日本ファイルコン株）		
25	中野 真（金沢工業大学）	北陸	学

No.	候補者名 (所属)	所属支部	産学
26	荒川雅裕 (名古屋工業大学)	中部	学
27	伊藤久司 (東海学園大学)		
28	伊藤 雅 (愛知工業大学)		
29	越島一郎 (名古屋工業大学)		
30	楠川恵津子 (大阪府立大学)	関西	学
31	蓮池 隆 (大阪大学)		
32	平林直樹 (大阪府立大学)		
33	森澤和子 (大阪府立大学)		
34	大坂吉文 (大坂コンサルタントオフィス)		産
35	飛田甲次郎 (ゴールドラットコンサルティングジャパン)		
36	金川明弘 (岡山県立大学)	中国四国	学
37	森川克己 (広島大学)		
38	佐竹 剛 (㈱神戸製鋼所)		産
39	小林 稔 (福岡工業大学)	九州	学
40	篠原 淳 (熊本学園大学)		

次点者 (2 名)

No.	候補者名 (所属)	所属支部	産学
1	方 蘇春 (聖泉大学)	関西	学
2	北條仁志 (大阪府立大学)		

第三号議案 規程改定の件

公益社団法人日本経営工学会 表彰規則（案）

旧	新
表彰規則 JS 1-09-1 公益社団法人 日本経営工学会 （総則） 第 1 条 本会は日本経営工学会定款第 5 条（3）に基づいて以下の賞を設け、本規則により表彰を行う。 （1）日本経営工学会賞（学術）（以下「学会賞（学術）」という） （2）日本経営工学会賞（功労）（以下「学会賞（功労）」という） （3）日本経営工学会論文賞（以下「論文賞」という） （4）日本経営工学会論文奨励賞（以下「論文奨励賞」という） 2 理事会は上記四つの賞以外に賞（以下「特別賞」と総称する）を設け表彰することができる。 （目的） 第 2 条 学会賞（学術）は、経営工学の基礎及び応用研究ならびに技術の進歩発展に、学術的な側面から顕著な業績をあげた者に授与する。 2 論文賞は、経営工学で顕著な研究業績をあげた者に授与する。 3 論文奨励賞は、今後の研究に発展性が期待でき奨励に値すると認められる研究業績をあげた者に授与する。 4 特別賞は経営工学の実践的研究ならびに技術の発展普及に顕著な業績をあげた者ないし団体等に授与する。特別賞には、それぞれの賞の内容にふさわしい名称をつける。 第 3 条 学会賞（功労）は、学会の維持・発展に対して顕著な功労があった者に授与する。	表彰規則 JS 1-09-1 公益社団法人 日本経営工学会

(授賞資格) 第 4 条 学会賞（学術）、学会賞（功労）、論文賞は本会名誉会員および正会員に対して授与する。 2 論文奨励賞は、授賞の対象となる研究業績が受理された時点で 35 歳以下の正会員（共同研究の場合は主となる者が 35 歳以下）に対して授与し、既受賞者は除く。 3 特別賞は本会会員はもとより、非会員に対しても授与することができる。 (対象業績) 第 5 条 学会賞（学術）の対象となる研究業績は、本学会論文誌に掲載された論文とし、これに関連する業績を参考とすることができる。 2 論文賞、論文奨励賞の対象となる研究業績は、最近 1 年間に本学会論文誌に掲載された論文とする。 3 特別賞の対象となる業績については、細則に定める。 第 6 条 学会賞（功労）の対象となる業績は、経営工学並びに当会の普及・発展、プレゼンスの向上への重要貢献とし、これに関連する功労を参考とすることができる。 (選考手続) 第 7 条 本規則に基づき受賞者の選考を行うために表彰委員会（以下「委員会」という）を設ける。 2 理事会は委員長を含めて 12 名以内の委員を選考し、会長はこれを委嘱する。 第 8 条 委員会は、受賞候補者推薦委員を選定し、各委員より広く受賞候補者の推薦を受ける。 第 9 条 委員会は受賞候補者の中から受賞者として適当と認められる者を選考し、選考理由書を添えて会長に報告する。	(授賞資格) 第 4 条 学会賞（学術）、学会賞（功労）は、本会名誉会員および正会員に対して授与する。 <u>2 論文賞は、授賞の対象となる論文が受理された時点で本会名誉会員または正会員である著者に対して授与する。</u> <u>3 論文奨励賞は、授賞の対象となる研究業績が受理された時点で 35 歳以下の正会員（共同研究の場合は主となる者が 35 歳以下）である著者に対して授与し、既受賞者は除く。</u> 4 特別賞は本会会員はもとより、非会員に対しても授与することができる。
---	---

第 10 条 会長は委員会での選考結果を理事会に諮り、受賞者を決定する。 (表彰) 第 11 条 表彰は総会もしくは発表会等において表彰状及び副賞の授与をもって行う。 第 12 条 各賞の決定結果は、すみやかに経営システム誌ならびに本会ホームページへ掲載するよう手続きを行う。 付則 1 この規則の担当は表彰委員会とする。 2 本規定は平成 22 年 5 月 15 日より施行する。 3 平成 25 年 5 月 1 日改正する。	付則 1 この規則の担当は表彰委員会とする。 2 本規定は平成 22 年 5 月 15 日より施行する。 3 平成 25 年 5 月 1 日改正する。 4 平成 27 年 5 月 30 日改正する。
---	---

第四号議案 新役員選任の件

第 33 期役員

役職名	氏 名	所 属
会 長	河野宏和	慶應義塾大学
理 事	伊呂原隆	上智大学
	稲田周平	慶應義塾大学
	皆川健多郎	大阪工業大学
	斎藤 文	産業能率大学
	大久保寛基	東京都市大学
	篠田心治	成蹊大学
	松林伸生	慶應義塾大学
	二ノ宮滋	元日本 I E 協会
	外館 晃 ※	(株)ブリヂストン
	岩崎 昭 ※	フィールド オブ ドリー ムス代表、元日本プラン トメンテナンス協会
	小西昭士 ※	(株)島津製作所
監 事	内田耕平 ※	旭硝子(株)
	高橋勝彦	広島大学
	後藤正幸	早稲田大学

※役員及び代議員選挙規則第 19 条による会長指名の役員

第 33 期代議員 (40 名)

No.	候補者名 (所属)	所属支部	産学
1	本多 薫 (山形大学)	東北・北海道	学
2	芥川一則 (福島工業高等専門学校)		
3	正道寺勉 (日本工業大学)	北関東	学
4	丸山友希夫 (日本工業大学)		
5	飯沼守彦 (日本大学)	東関東	学
6	川村大伸 (筑波大学)		
7	白井 裕 (千葉工業大学)		
8	高野倉雅人 (神奈川大学)	西関東	学
9	中島健一 (神奈川大学)		
10	山田哲男 (電気通信大学)		
11	石島 隆 (法政大学)		
12	岡部建次 (駿河台大学)		
13	孔 憲達 (首都大学東京)		
14	斎藤正武 (中央大学)		
15	竹田 賢 (青山学院大学)		
16	山下 真 (東京工業大学)		
17	山本久志 (首都大学東京)		
18	大江啓太郎 (株)MD ビジネスパートナー)		産
19	中山麻紀 (日本光電工業(株))		
20	大宮 望 (コニカミノルタ情報システム(株))		
21	佐藤正一 (東洋エンジニアリング(株))		
22	鈴木泰之 (株)大和証券ビジネスセンター)		
23	高林直樹 (庄原市役所)		
24	林 千宏 (日本ファイルコン(株))		
25	中野 真 (金沢工業大学)	北陸	学

No.	候補者名 (所属)	所属支部	産学
26	荒川雅裕 (名古屋工業大学)	中部	学
27	伊藤久司 (東海学園大学)		
28	伊藤 雅 (愛知工業大学)		
29	越島一郎 (名古屋工業大学)		
30	楠川恵津子 (大阪府立大学)	関西	学
31	蓮池 隆 (大阪大学)		
32	平林直樹 (大阪府立大学)		
33	森澤和子 (大阪府立大学)		
34	大坂吉文 (大坂コンサルタントオフィス)		産
35	飛田甲次郎 (ゴールドラットコンサルティングジャパン)		
36	金川明弘 (岡山県立大学)	中国四国	学
37	森川克己 (広島大学)		
38	佐竹 剛 (株神戸製鋼所)		産
39	小林 稔 (福岡工業大学)	九州	学
40	篠原 淳 (熊本学園大学)		

第五号議案 会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件

◎会員権利停止・会員資格喪失予告者一覧（1年間：2014年度 正会員：48名 学生会員：18名）

下記の会員権利停止・会員資格喪失予告者については定款第10条および会員規則第4条により、

(1)2015年9月末日までに会費未納の場合は、会員の権利を2016年1月末日まで停止する。

(2)2016年1月末日までに会費未納の場合は、会員資格喪失とする。

正会員 48名

須田 健二	瀧本 誠二	武田 龍	永野 満	狭間 雅義	相良 浩史
高木 昇	中山 英明	藤原 裕也	太田 悠介	唐澤 英安	石川 裕
KASMO SALAH	原田 雅顕	吉兼 裕貴	松本 義之	渡辺 竹千代	泉 宏明
安東 弘光	森 久美子	黒田 次郎	山口 靖弘	清水 信幸	鎌田 晃造
賀川 裕介	中易 秀敏	吉田 知和	青木 通佳	金山 茂雄	網野 元紀
佐々木 典夫	三澤 哲夫	青木 武典	村井 繁夫	尾崎 達也	武田 亜希
関口 延裕	日當 明男	西村 和男	池田 太将	辻村 泰寛	金岡 節男
本望 論	安田 一彦	吉川 雅弥	マウンザオ アウントエ		大塚 恵哉
姜 東暁					

学生会員 18名

DANG DANG KHOA		小田 純平	桑山 智彦	五十嵐 健人	村岡 利之
重久 拓司	渡部 幸平	于 亜婷	千野 宗博	田邊 幸祐	渡辺 晃寿
矢後 諒智	若山 亮	添田 大智	塩田 純	中嶋 秀幸	飯田 恭弘
鈴木 亮介					

公益社団法人 日本経営工学会